市１８－３５

転落防止床更新工事

工　事　仕　様　書

（適用範囲）
第１条　　本仕様書は千葉都市モノレール駅（市役所前駅）転落防止床更新工事に適用する。

（適用基準）
第２条　　業務実施にあたっては関連する法令等によるものの他、次の各号に掲げる基準等を適用する

・公共建築改修工事標準仕様書（最新版）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
・建築改修工事管理指針（最新版）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
・千葉都市モノレール関連基準集

その他不明な点が発生した場合は監督員と随時打合せを行い施行すること。

（施工箇所及び寸法）
第３条　　施工箇所・施工内容については、別添の「資料①」（設計図）及び「資料②」（数量計算書のとおりとする。

（施工方法及び使用材料）
第４条　　別添の「資料③」（転落防止床防水工事仕様書）にしたがうこと。

（提出書類）
第５条　　施工にあたり、次の書類を提出するものとする。

１．施工前（着工書類）
着手届
現場代理人届及び主任技術者届
施工計画書
施工打合せ票
工事工程表（着手時、月間工程表、週間工程表）
作業申込書

２．施工中
施工打合せ票
作業日報
週間工程表（翌週分を毎週木曜日までに提出すること）

３．完成後（竣工書類、図面）
完了届
工事報告書（工事写真帳）
目的物引渡書
保証書
竣工図
マニュフェスト

４．その他監督員が指示するもの。

（作業の着手及び終了）
第６条　　作業にあたり、その１４日前までに作業申込書により監督員あてに通知するものとする。

２．作業が終了した時はその都度後片付けを行い、確認したうえで関係箇所に作業終了の連絡をするものとする。

（監督員の立会い）
第７条　　監督員が立会いを指示した作業は、監督員の立会いのもとに行わなければならない。

（安全対策）
第８条　　あらかじめ事故防止上必要な事項について打ち合わせを行い、当社の業務に支障を及ぼさぬよう、作業に起因する事故の防止に努めなければならない。
特に異常時における対策については、事前の手配を十分に講じておかなければならない。

２．作業員に対し、作業前に次の各号に定めるところにより指示を行い知得させるものとする。
（１）作業員の健康状態、服装(安全帽の着用)等に対する注意、並びに作業内容及び作業方法の明確な指示をすること。
（２）工具及び保護具の使用前の点検及び使用上の指示をすること。

３．その他、関係箇所と連絡を密にし作業を行うこと。

（事故発生時の処置）
第９条　　工事責任者は作業に関して事故が発生した時、またはその恐れがある時は直ちに関係箇所に連絡してその指示を受けるとともに適宜の処置をとらなければならない。

以　　上

「資料①」

千葉都市モノレール株式会社

転落防止床更新工事（市役所前）

設　計　図

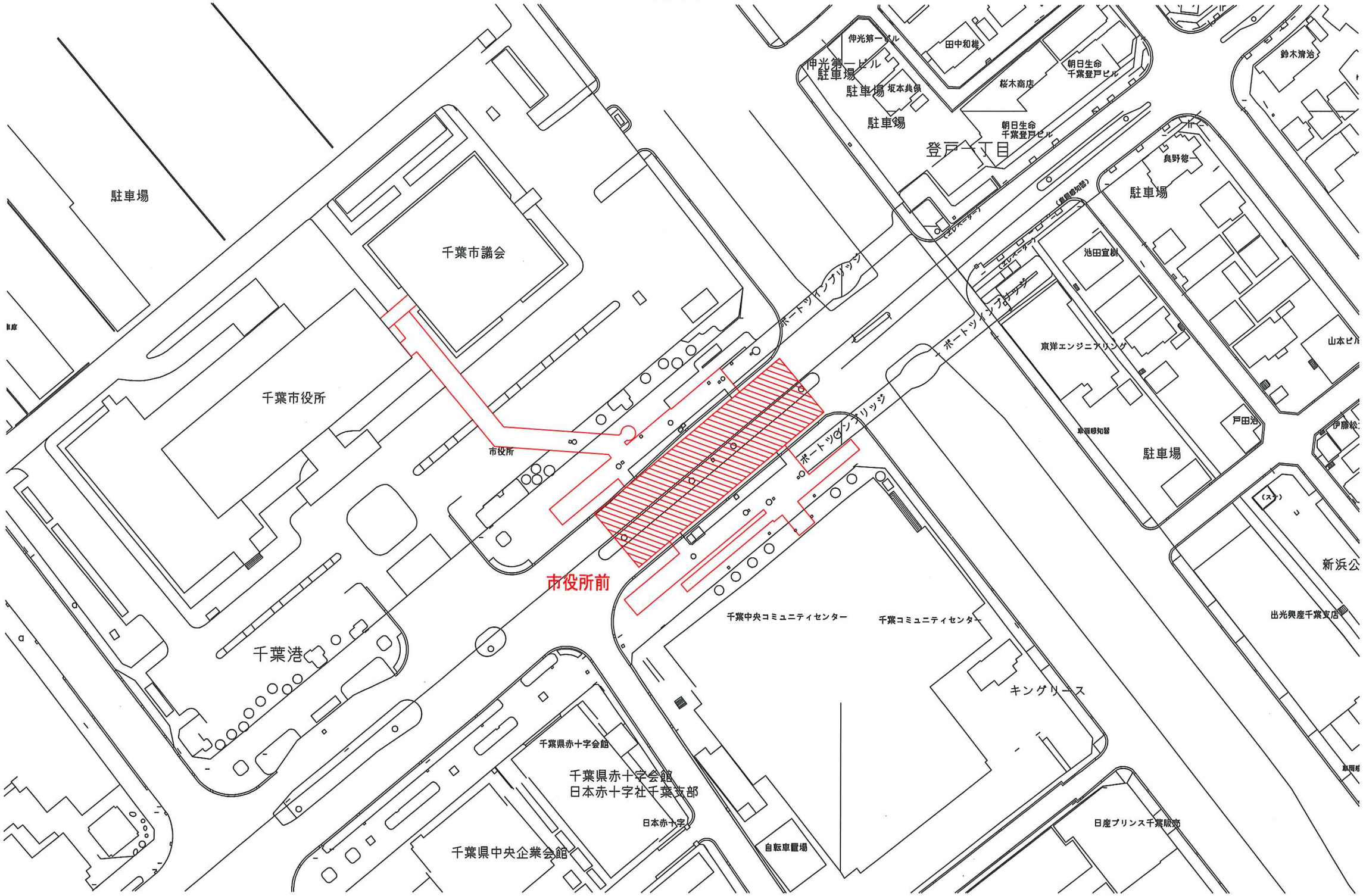
平成３０年９月

	改修			千葉都市モノレール株式会社		管理	担当	担当	工事名称	転落防止床更新工事（市役所前）	図面名称	表紙	日付		整理番号
									工事箇所	市役所前駅			縮尺		図面番号

図面目録	
配置図	1/1000
補修図（市役所前駅）	図示

改訂			千葉都市モノレール株式会社		管理	照査	担当	工事名称	転落防止床更新工事（市役所前）	図面名称	図面目録	日付		整理番号	
								工事箇所	市役所前駅			縮尺		図面番号	

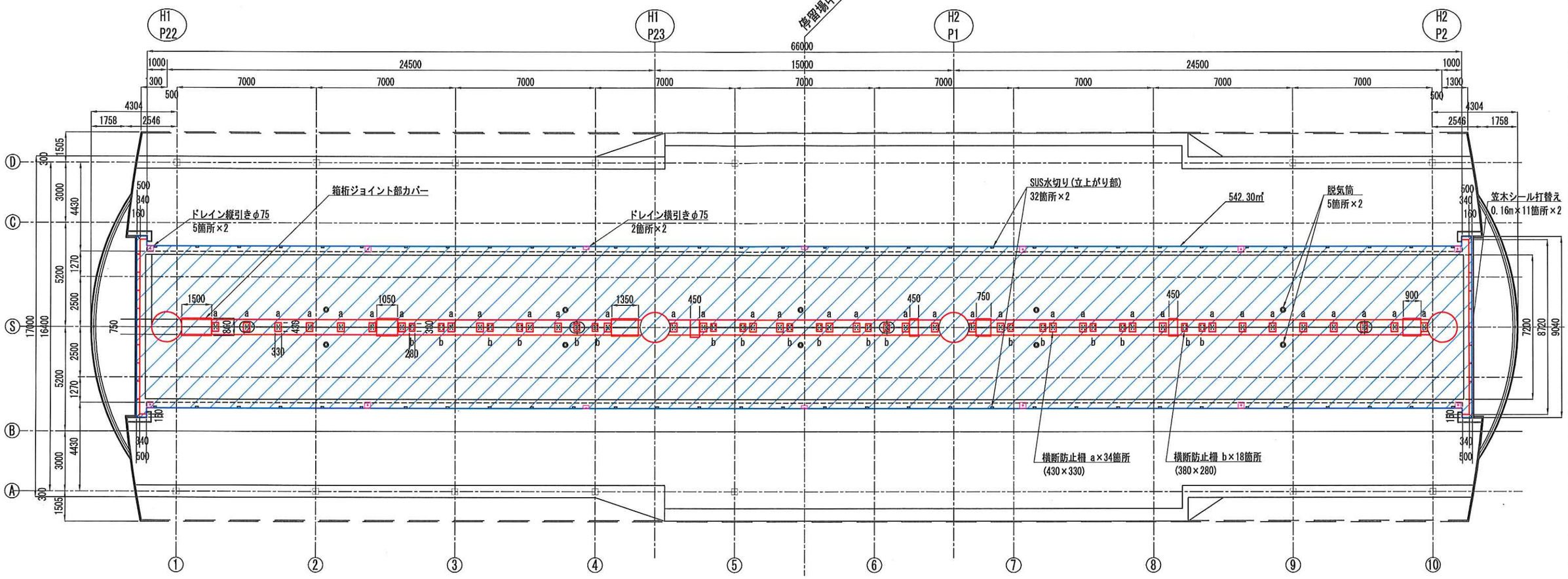
配置図



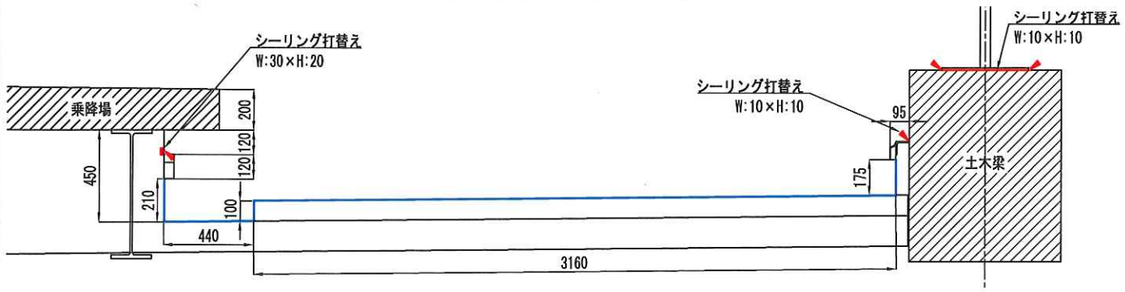
図面		千葉都市モノレール株式会社	管理	図案	担当	工事名称	転落防止床更新工事（市役所前）	図面名称	配置図	日付		整理番号	
						工事箇所	市役所前駅			縮尺	1：1000	図面番号	1/2

補修図（市役所前駅）（ S=図示 ）

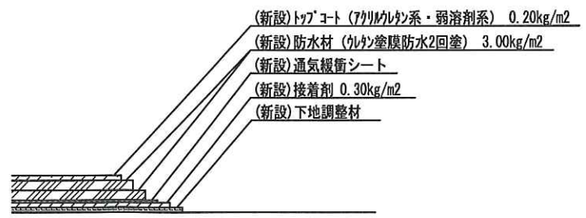
【 平面図 】S=1/200



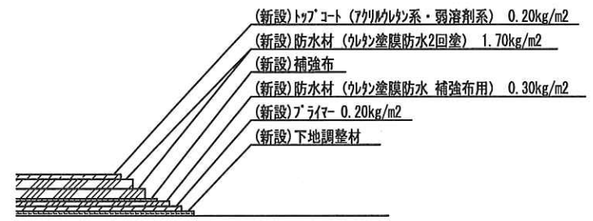
【 転落防止床詳細図 】S=1/30



【 防水層更新仕様 / X-1 平場部（参考）】

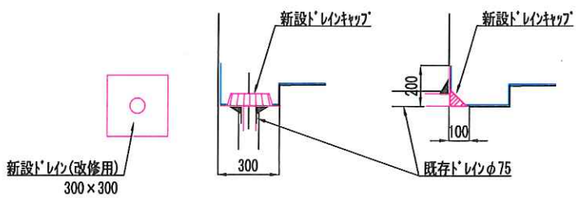


【 防水層更新仕様 / X-2 立上り部 笠木（参考）】

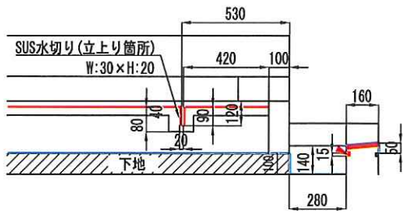


※ 既存ドレインの内径を確認し、現場に適した改修用ドレインを取り付けること。
※ ドレインキャップの仕様については発注者に確認を取り、施工すること。
※ 防水層改修仕様については、平場部X-1、立上り部X-2で施工すること。
※ 防水材は、公共建築工事標準仕様の同等以上の防水性能を有し、製品の仕様に準拠して施工すること。
※ 既存防水層撤去後、必要に応じて下地調整を行うこと。
※ シーリング材は変性シリコン(MS-2)を使用すること。
※ 転落防止床表層にわれ、ふくれ等が発生しないように施工すること。
※ 笠木部は、下地に合ったプライマーを塗布後、X-2で施工すること。
※ 脱気装置の種類については、施工者に承諾をとり施工すること。

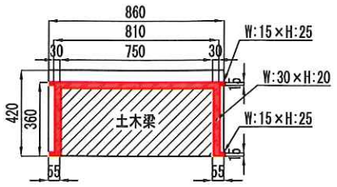
【 ルーフドレイン詳細図 】S=1/30



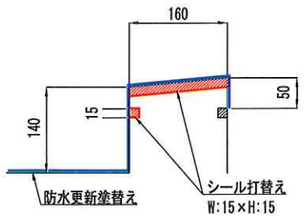
【 ホーム端部詳細図 】S=1/30



【 箱桁ｼﾞｮｲﾝﾄ部ｶﾊﾞｰ詳細図 】S=1/30



【 笠木詳細図 】S=1/10



凡 例

表 示	防 水 仕 様
	シーリング打替え
	防水層更新

改修		千葉都市モノレール株式会社	管理	図面	担当	工事名称	転落防止床更新詳細設計業務委託（市役所前）	図面名称	補修図（市役所前）	日付		整理番号	
						工事箇所	市役所前駅			縮尺	図示	図面番号	2/2

「資料②」

数量計算書

市役所前駅

目次

1.数量総括表 ..... P 1

2.仮設 ..... P 2

3.下地調整 ..... P 5

4.塗膜防水（防水層更新） ..... P 11

5.改修ﾄﾞﾚｲﾝ ..... P 14

6.脱気装置 ..... P 16

7.ｼｰﾘﾝｸﾞ ..... P 17

8.撤去 ..... P 22

9.発生材 ..... P 24

1．数量総括表（市役所前駅）

工種	種別	細別	規格	単位	数量
仮設	足場	－	－	m2	623.70
仮設	養生	－	－	m2	623.70
仮設	整理清掃後片付け		－	m2	623.70
防水	下地調整	高圧洗浄		m2	623.70
防水	下地調整	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ	－	m2	585.51
防水	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	平場	X-1	m2	481.40
防水	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	立上り、笠木	X-2	m2	142.30
防水	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	改修ﾄﾞﾚｲﾝ設置	縦引き	個	10
防水	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	改修ﾄﾞﾚｲﾝ設置	横引き	個	4
防水	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	脱気装置設置	－	個	10
防水	シーリング	変形シリコーン	W10×H10	m	209.78
防水	シーリング	変形シリコーン	W15×H15	m	22.32
防水	シーリング	変形シリコーン	W15×H25	m	27.60
防水	シーリング	変形シリコーン	W30×H20	m	169.98
撤去	既存防水層撤去	－	－	m2	585.51
撤去	シーリング撤去	変形シリコーン	－	m	429.68
発生材	金属くず	－	－	m3	0.03
発生材	混合廃棄物		－	m3	3.07

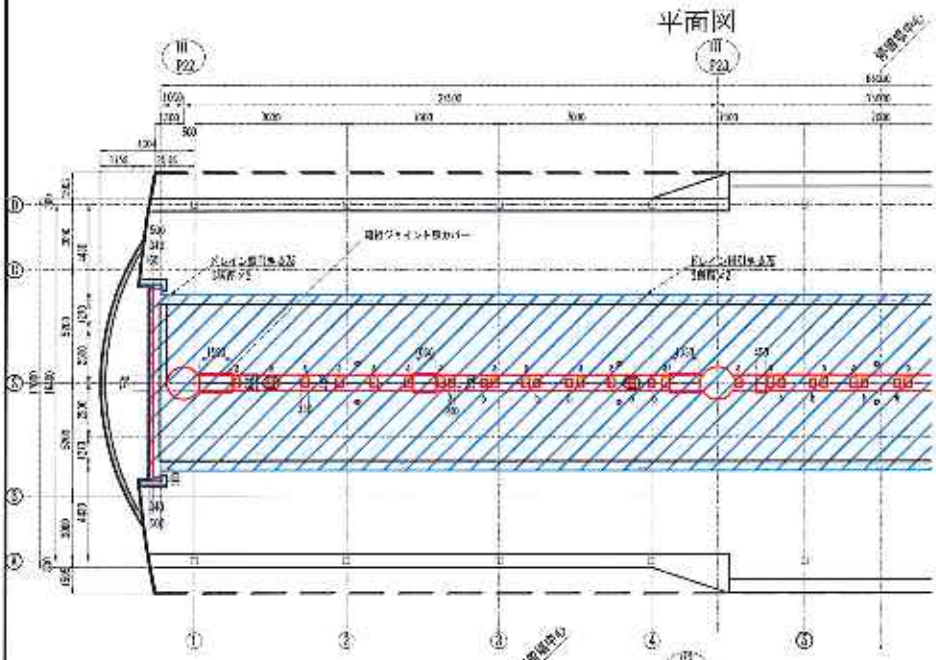
2．仮設

2－1．仮設

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
仮設	墨出し、養生、整理清掃後片付け	－	－	㎡	623.70

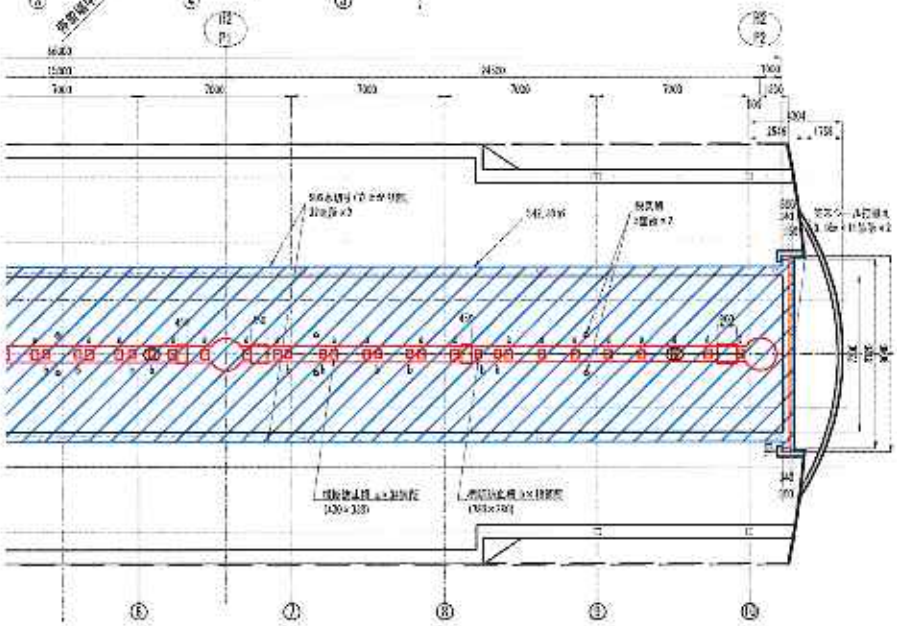
略　図

平面図

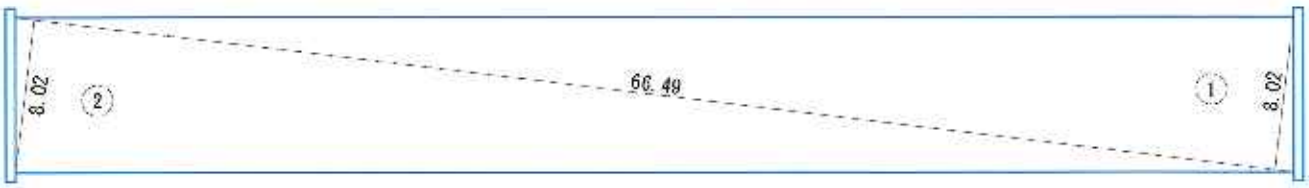


求積表

No.	底辺	高さ	面積
1	66.49	8.02	533.2498
2	66.49	8.02	533.2498
		合計	1065.4996
		1/2	533.2498
		面積	533.25



求積図（平場部）



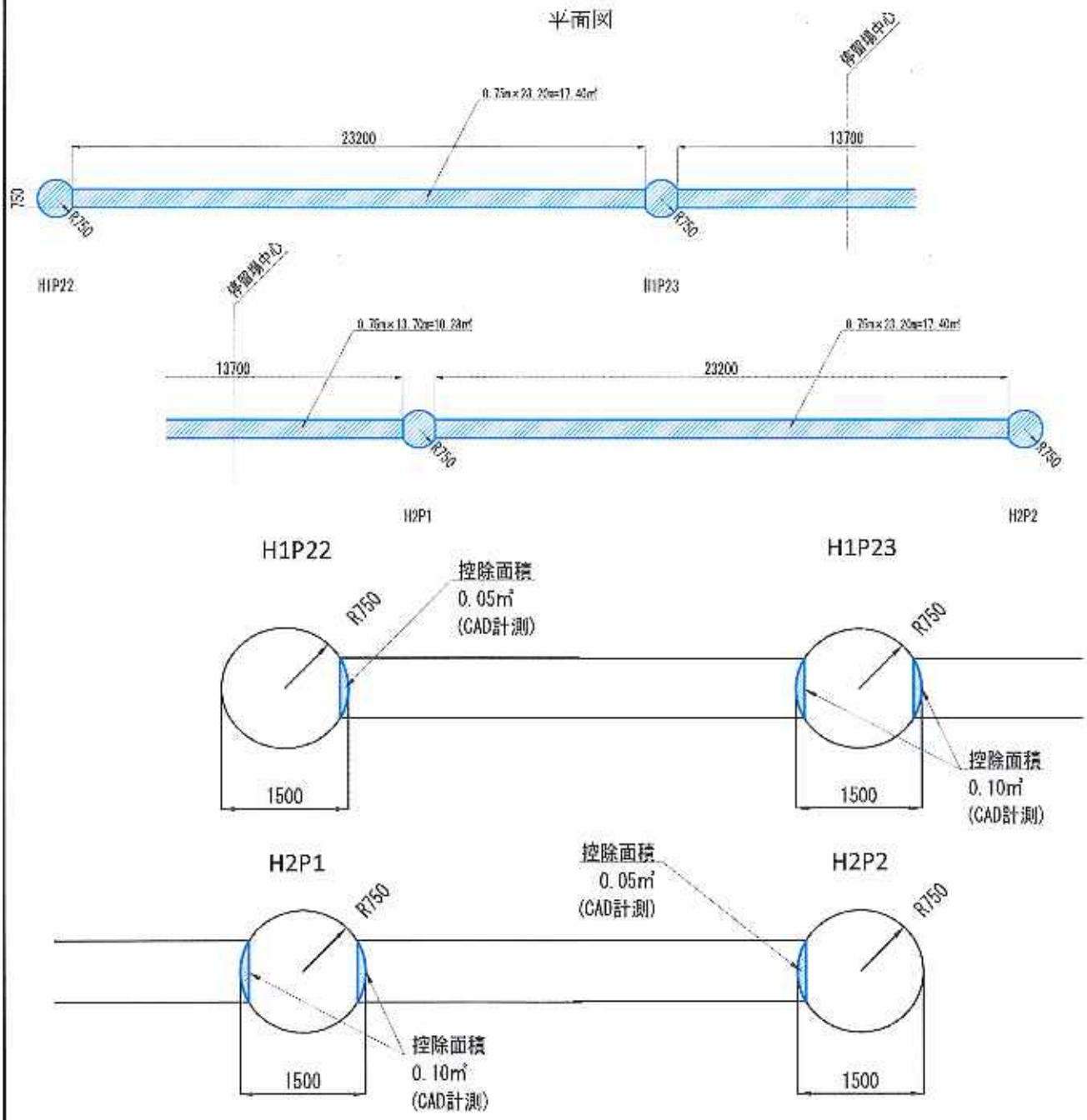
名　称	計算式		単位	数　量
①平場	求積表参照	=	㎡	533.25
②控除面積	※「2－2．仮設」参照	－	㎡	-51.85
③立上り	※「2－3．仮設」参照	=	㎡	142.30
合計		－	㎡	623.70

2．仮設

2－2．仮設

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
仮設	墨出し、養生、整理清掃後片付け	－	－	㎡	51.85

略　図



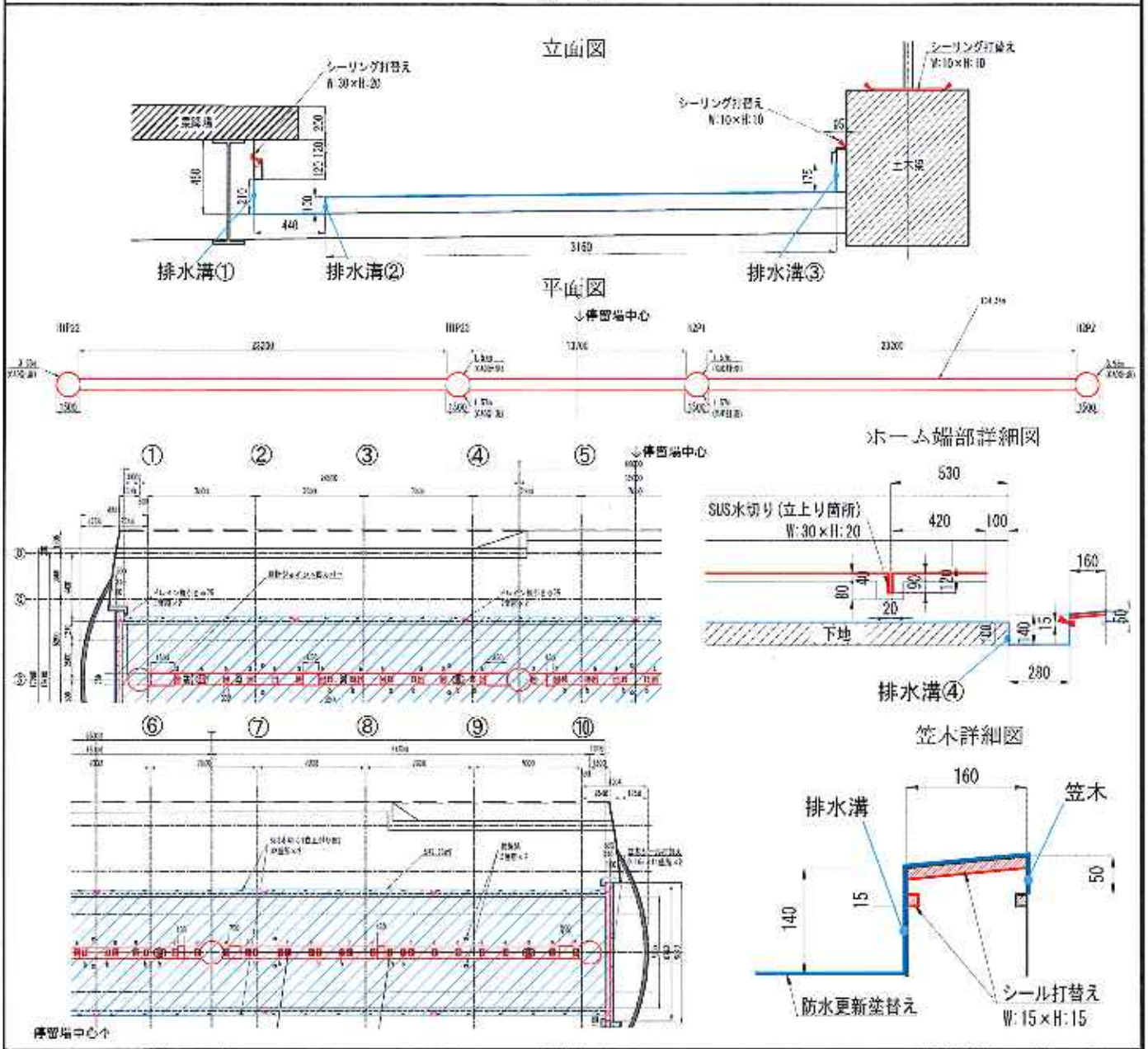
名　称	計算式		単位	数　量
平場控除面積 上木梁	0.75　*((23.20　*2)　+13.70)	－	㎡	45.08
①支柱	(0.75*0.75*3.14)　*4	＝	㎡	7.07
(控除面積) ②支柱	－(0.05　+0.10)　*2	－	㎡	-0.30
合計		＝	㎡	51.85

2．仮設

2－3．仮設

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
仮設	墨出し、養生、整理清掃後片付け	－	－	㎡	142.30

略　図



名　称	計算式		単位	数　量
立上がり				
排水溝① (乗降場側)	(0.21　*66.00)　*2	=	㎡	27.72
排水溝② (乗降場側)	(0.10　*66.00)　*2	=	㎡	13.20
排水溝③ (ホーム端側)	0.18　*134.34	=	㎡	24.18
排水溝④ (ホーム端側)	(0.10　*72.00)　*2	=	㎡	14.40
排水溝⑤ (ホーム端側)	(0.14　*(87.20　+0.34*2))　*2	=	㎡	24.61
笠木 (外壁側)	((0.05+0.16)　*90.40)　*2　+(0.16*0.34)　*4	=	㎡	38.19
合計		=	㎡	142.30

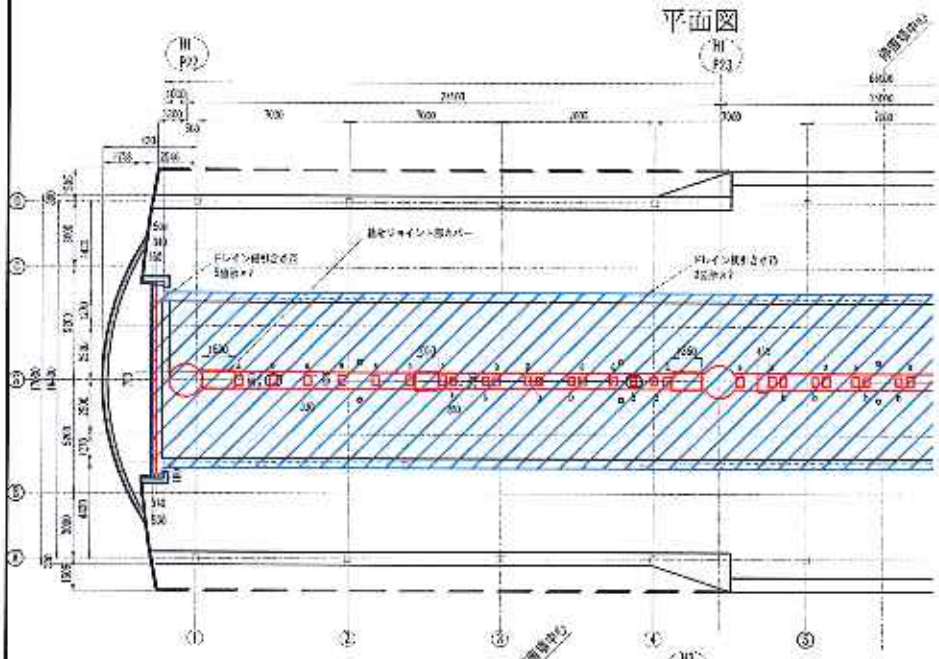
3．下地調整

3－1．下地調整（高圧洗浄）

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	下地調整	高圧洗浄	－	㎡	623.70

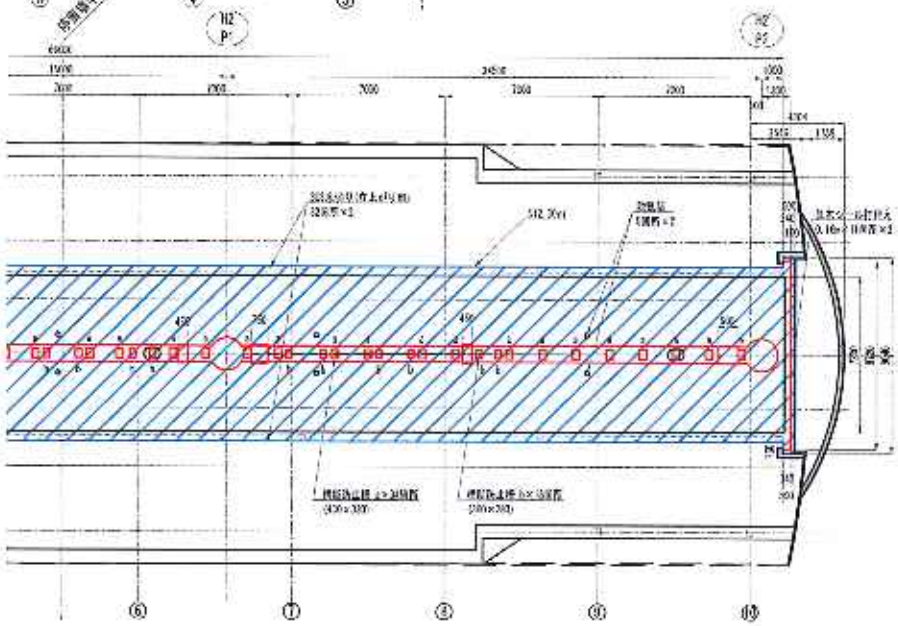
略　図

平面図

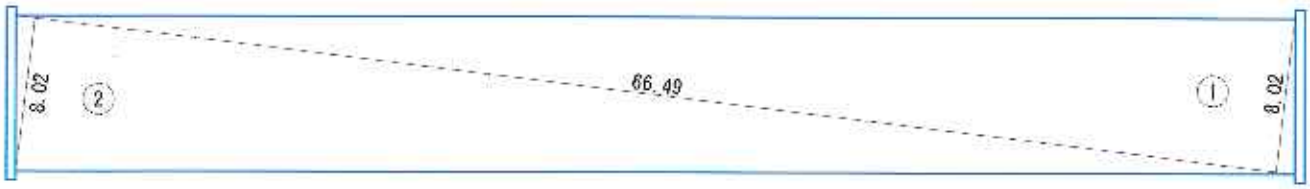


求積表

No.	底辺	高さ	面積
1	66.49	8.02	533.2498
2	66.49	8.02	533.2498
		合計	1066.4996
		1/2	533.2498
		面積	533.25



求積図（平場部）



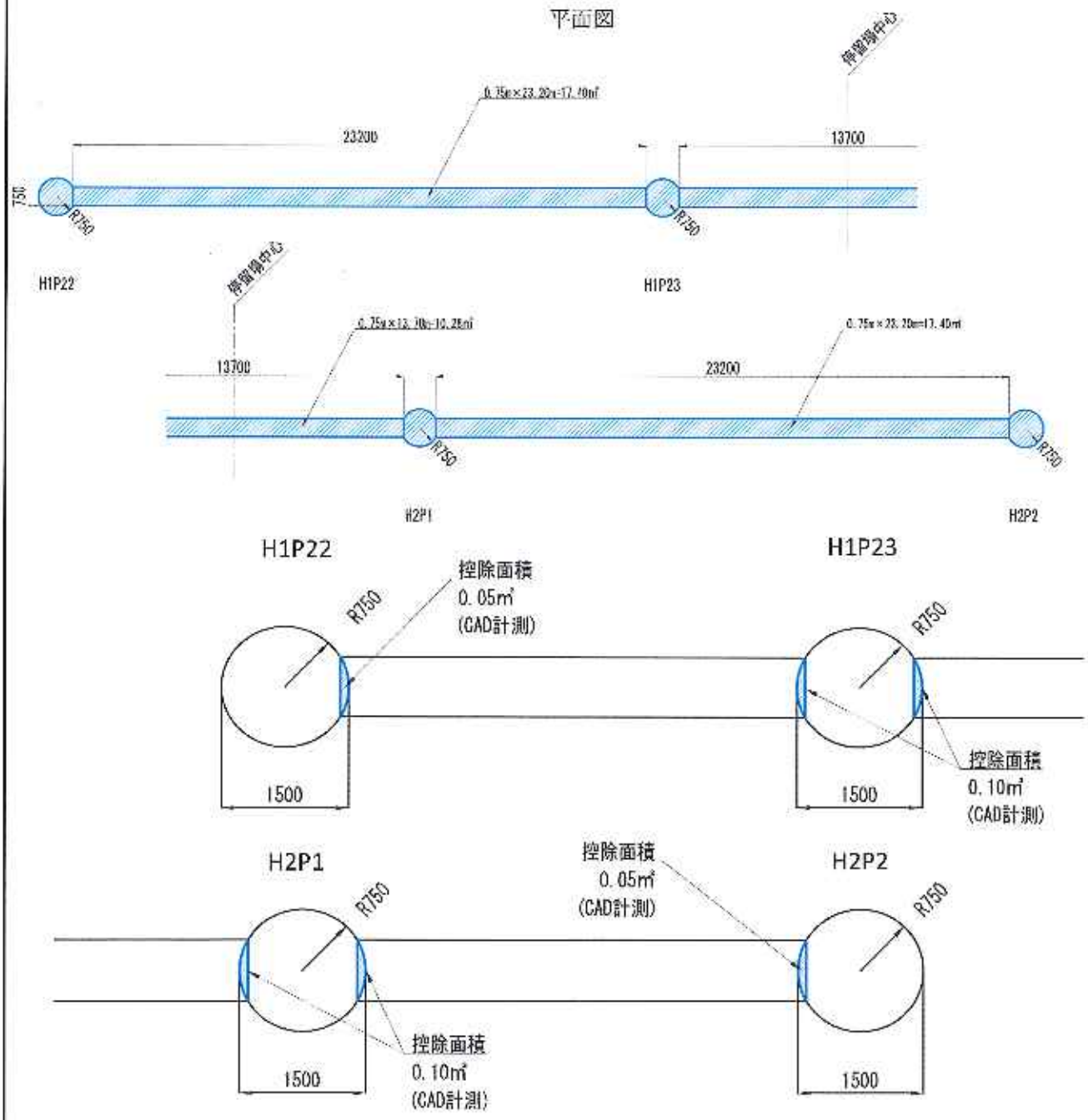
名　称	計算式		単位	数　量
①平場	求積表参照	=	㎡	533.25
②控除面積	※「2－2．仮設」参照	=	㎡	-51.85
③立上り	※「2－3．仮設」参照	=	㎡	142.30
合計		=	㎡	623.70

3．下地調整

3－2．下地調整（高圧洗浄）

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	下地調整	高圧洗浄	－	㎡	51.85

略　図



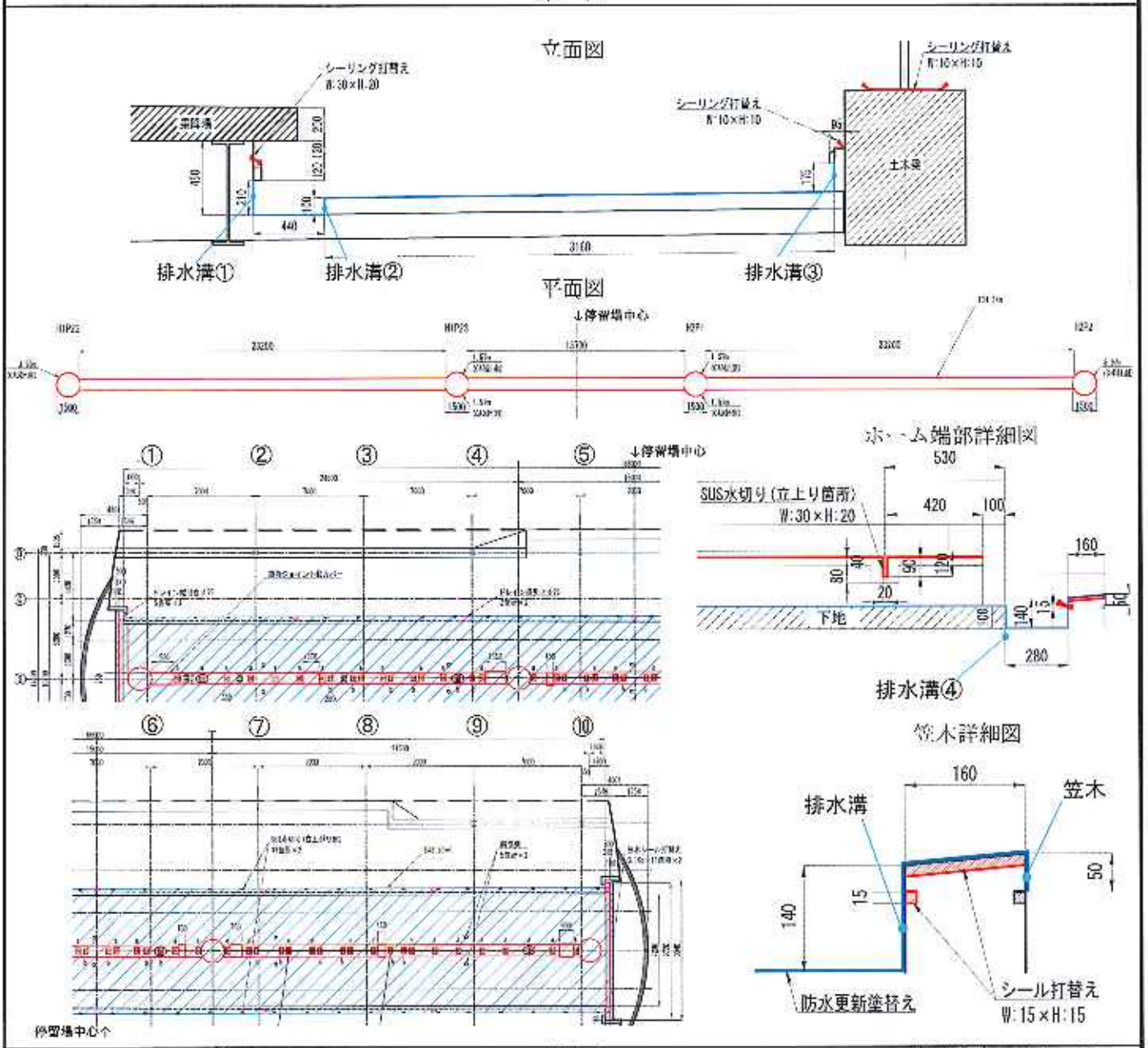
名　　称	計算式		単位	数　量
平場控除面積 土木梁	0.75　*((23.20　*2)　+13.70)	=	㎡	45.08
①支柱	(0.75*0.75*3.14)　*4	=	㎡	7.07
(控除面積) ②支柱	(0.05　+0.10)　*2	=	㎡	−0.30
合計		=	㎡	51.85

3．下地調整

3－3．下地調整（高圧洗浄）

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	下地調整	高圧洗浄		㎡	142.30

略　図



名　称	計算式		単位	数　量
立上がり				
排水溝① (乗降場側)	(0.21　*66.00)　*2	=	㎡	27.72
排水溝② (乗降場側)	(0.10　*66.00)　*2	=	㎡	13.20
排水溝③ (ホーム端側)	0.18　*134.34	=	㎡	24.18
排水溝④ (ホーム端側)	(0.10　*72.00)　*2	=	㎡	14.40
排水溝⑤ (ホーム端側)	(0.14　*(87.20　+0.34*2))　*2	=	㎡	24.61
笠木 (外壁側)	((0.05+0.16)　*90.40)　*2　+(0.16*0.34)　*4	=	㎡	38.19
合計		=	㎡	142.30

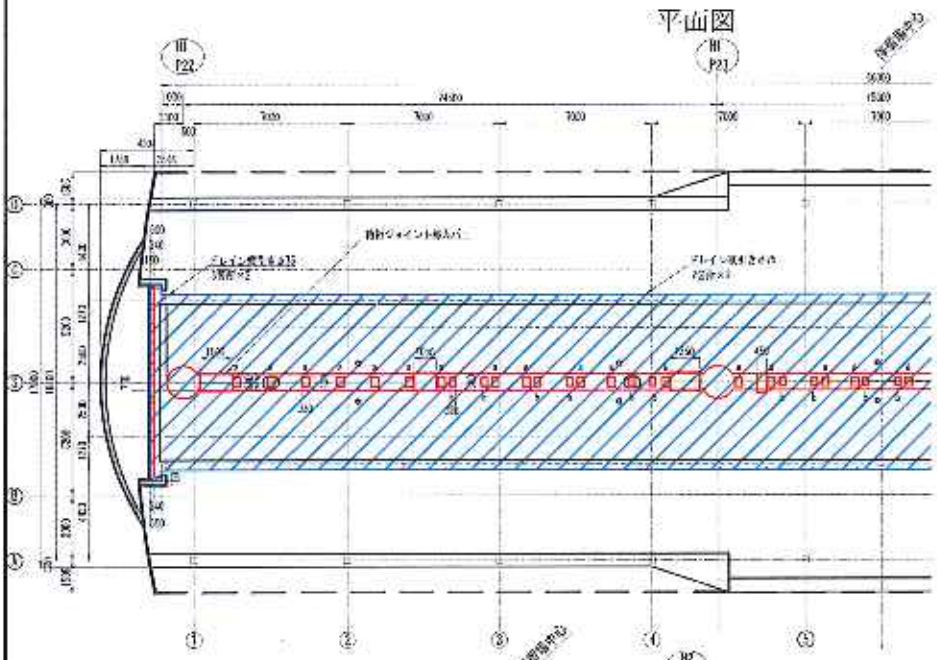
3．下地調整

3－4．下地調整（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ）

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	下地調整	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ	－	㎡	585.51

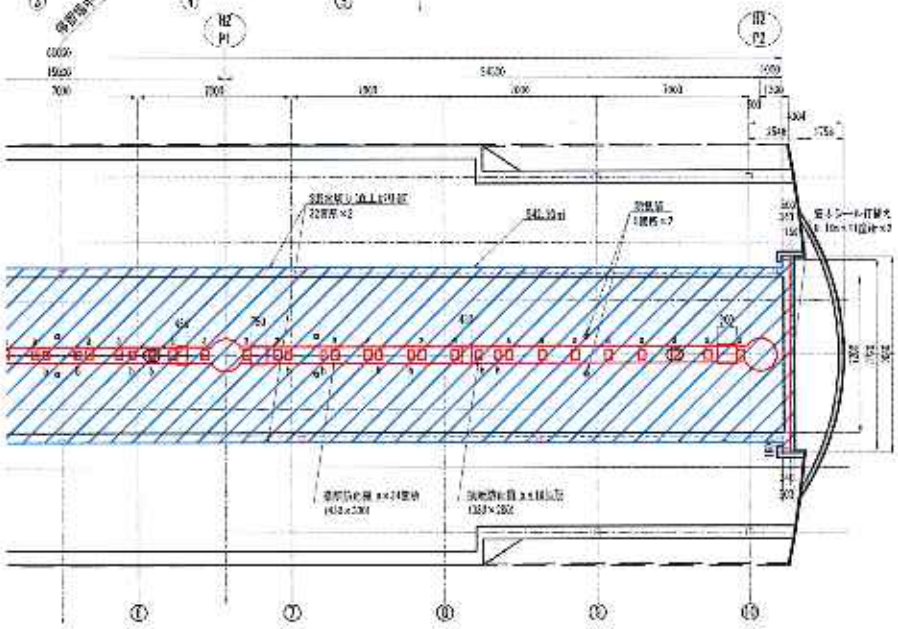
略　図

平面図

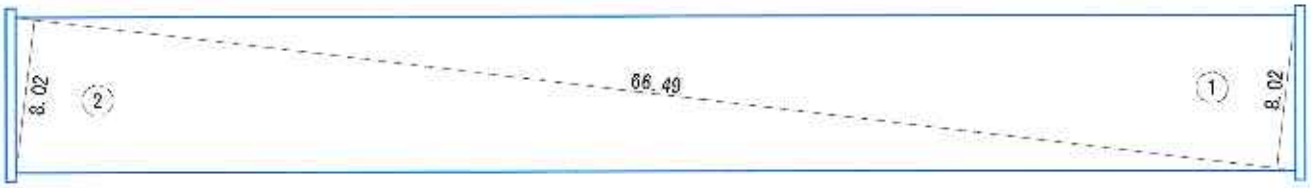


求積表

No.	底辺	高さ	面積
1	66.49	8.02	533.2498
2	66.49	8.02	533.2498
		合計	1066.4996
		1/2	533.2498
		面積	533.25



求積図（平場部）



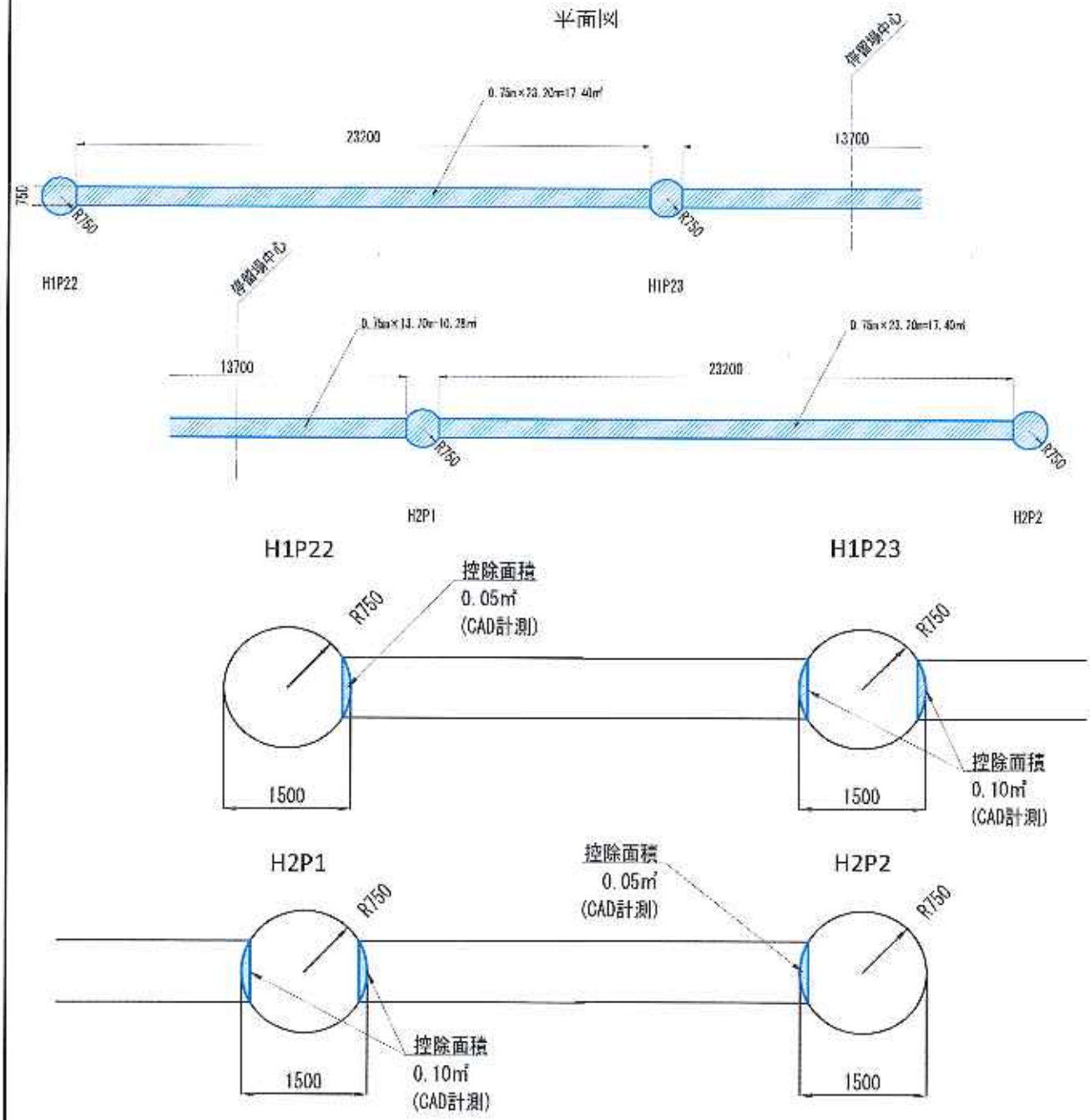
名　称	計算式		単位	数　量
①平場	求積表参照	=	㎡	533.25
②控除面積	※「2－5．仮設」参照	－	㎡	－51.85
③立上り	※「2－6．仮設」参照	=	㎡	104.11
合計		=	㎡	585.51

3．下地調整

3－5．下地調整（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ）

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	下地調整	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ	－	㎡	51.85

略　図



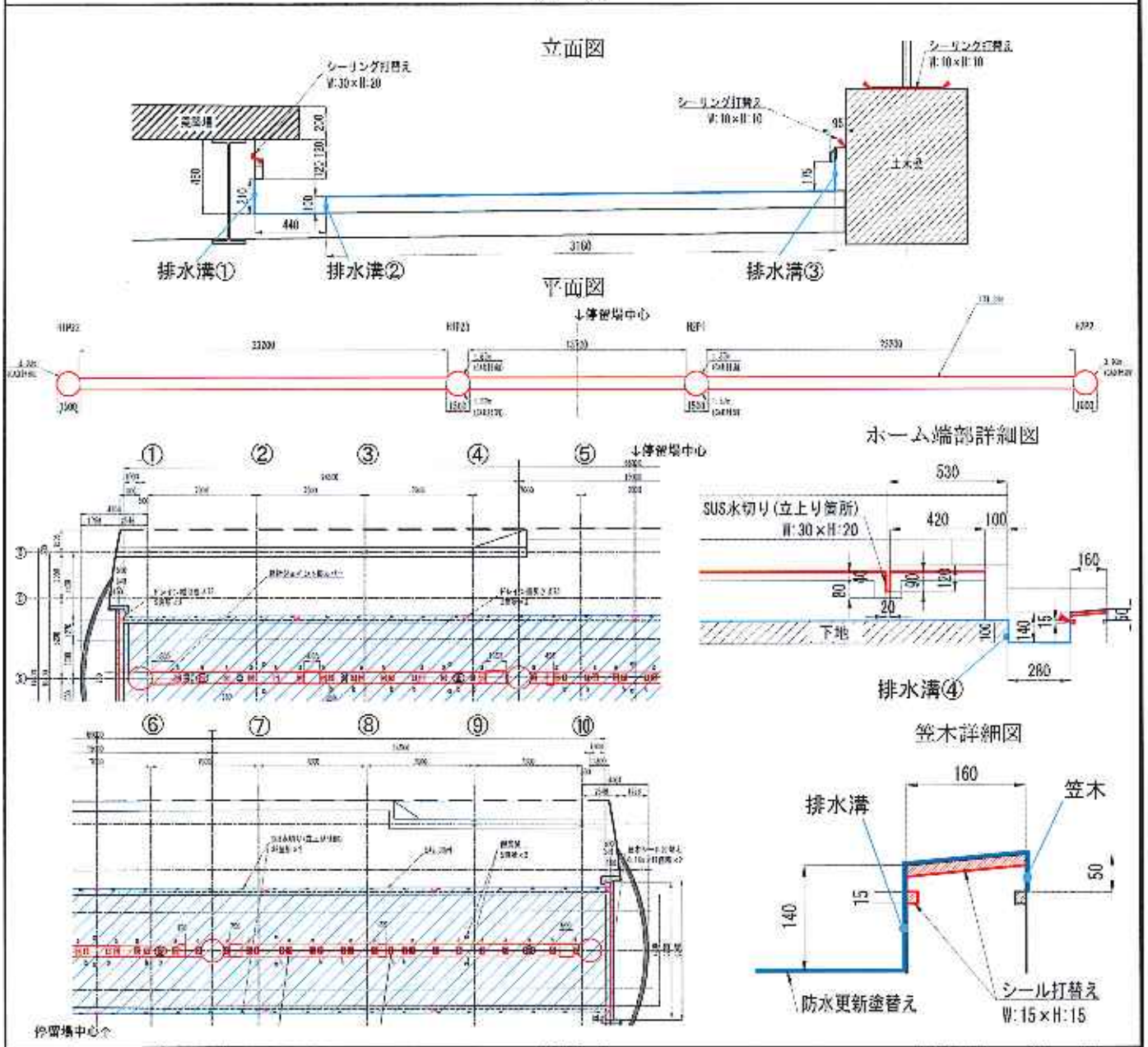
名　　称	計算式		単位	数　量
平場控除面積 十木梁	0.75　*((23.20　*2)　+13.70)	=	㎡	45.08
①支柱	(0.75*0.75*3.14)　*4	=	㎡	7.07
(控除面積) ②支柱	(0.05　+0.10)　*2	=	㎡	0.30
合計		=	㎡	51.85

3．下地調整

3－6．下地調整（ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ）

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	下地調整	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾍﾟｰｽﾄ	－	㎡	104.11

略　図



名　称	計算式		単位	数　量
立上がり				
排水溝① (乗降場側)	(0.21　*66.00)　*2	=	㎡	27.72
排水溝② (乗降場側)	(0.10　*66.00)　*2	=	㎡	13.20
排水溝③ (ホーム端側)	0.18　*134.34	=	㎡	24.18
排水溝④ (ホーム端側)	(0.10　*72.00)　*2	=	㎡	14.40
排水溝⑤ (ホーム端側)	(0.14　*(87.20　+0.34*2))　*2	=	㎡	24.61
合計		=	㎡	104.11

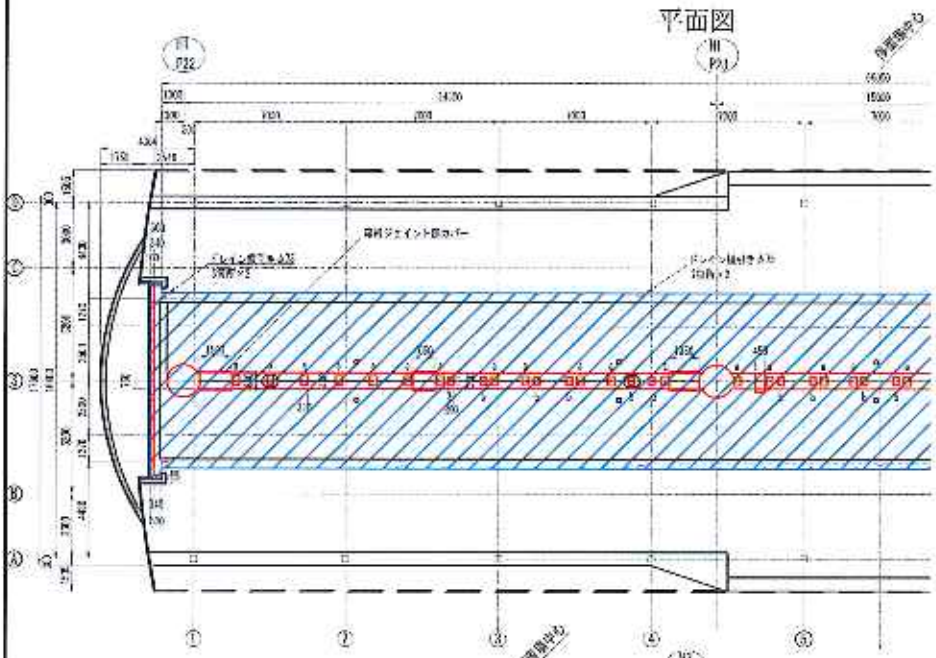
4．塗膜防水

4－1．塗膜防水（防水層更新）

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	平場	X-1	㎡	481.40

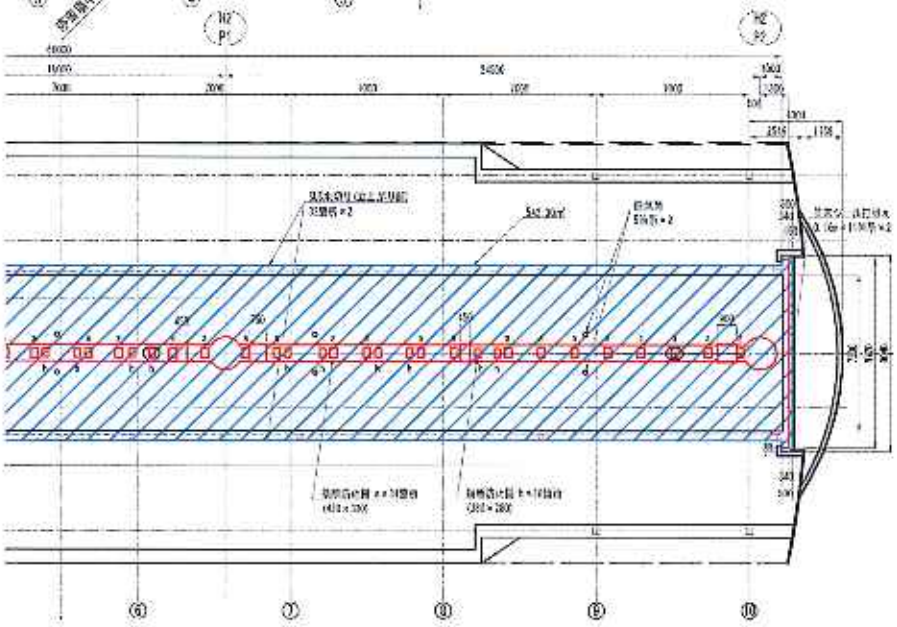
略　図

平面図

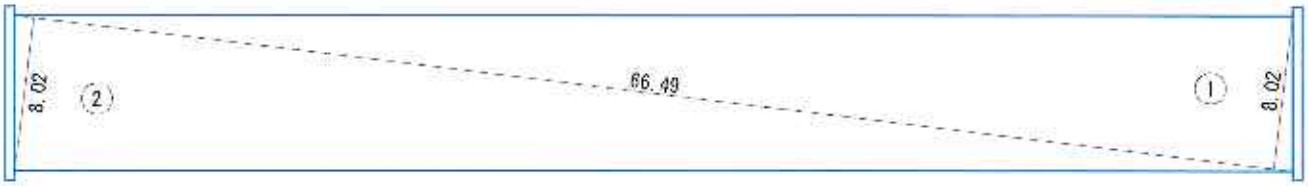


求積表

No.	底辺	高さ	面積
1	66.49	8.02	533.2498
2	66.49	8.02	533.2498
		合計	1066.4996
		1/2	533.2498
		面積	533.25



求積図（平場部）



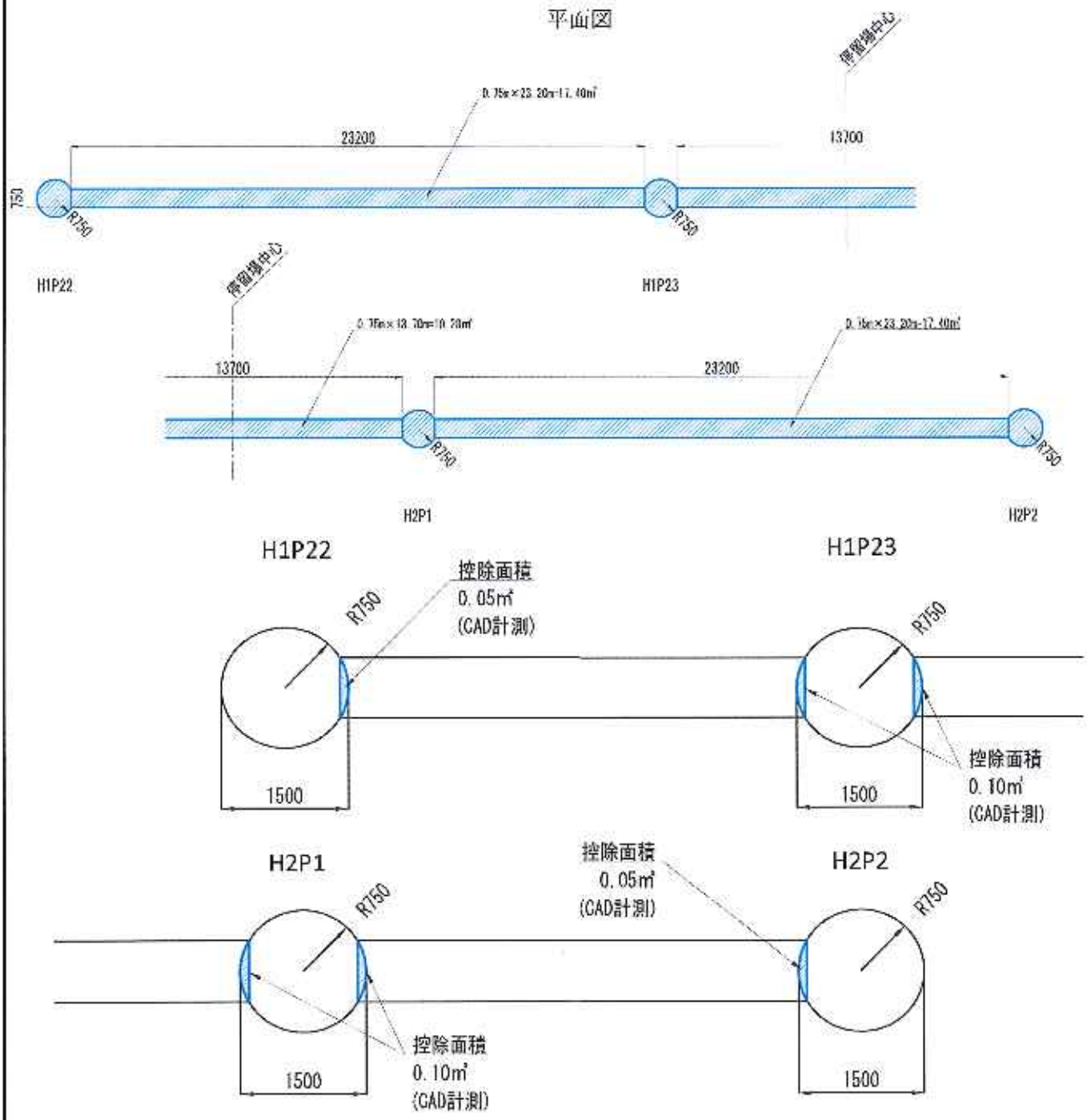
名　称	計算式		単位	数　量
①平場	533.25	=	㎡	533.25
	求積表１ 参照			
②控除面積	※「４ ２．防水層更新数量」参照	=	㎡	-51.85
合計		=	㎡	481.40

4．塗膜防水

4－2．塗膜防水（防水層更新）数量

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	ウレタン塗膜防水	平場	X-1	m²	51.85

略　図



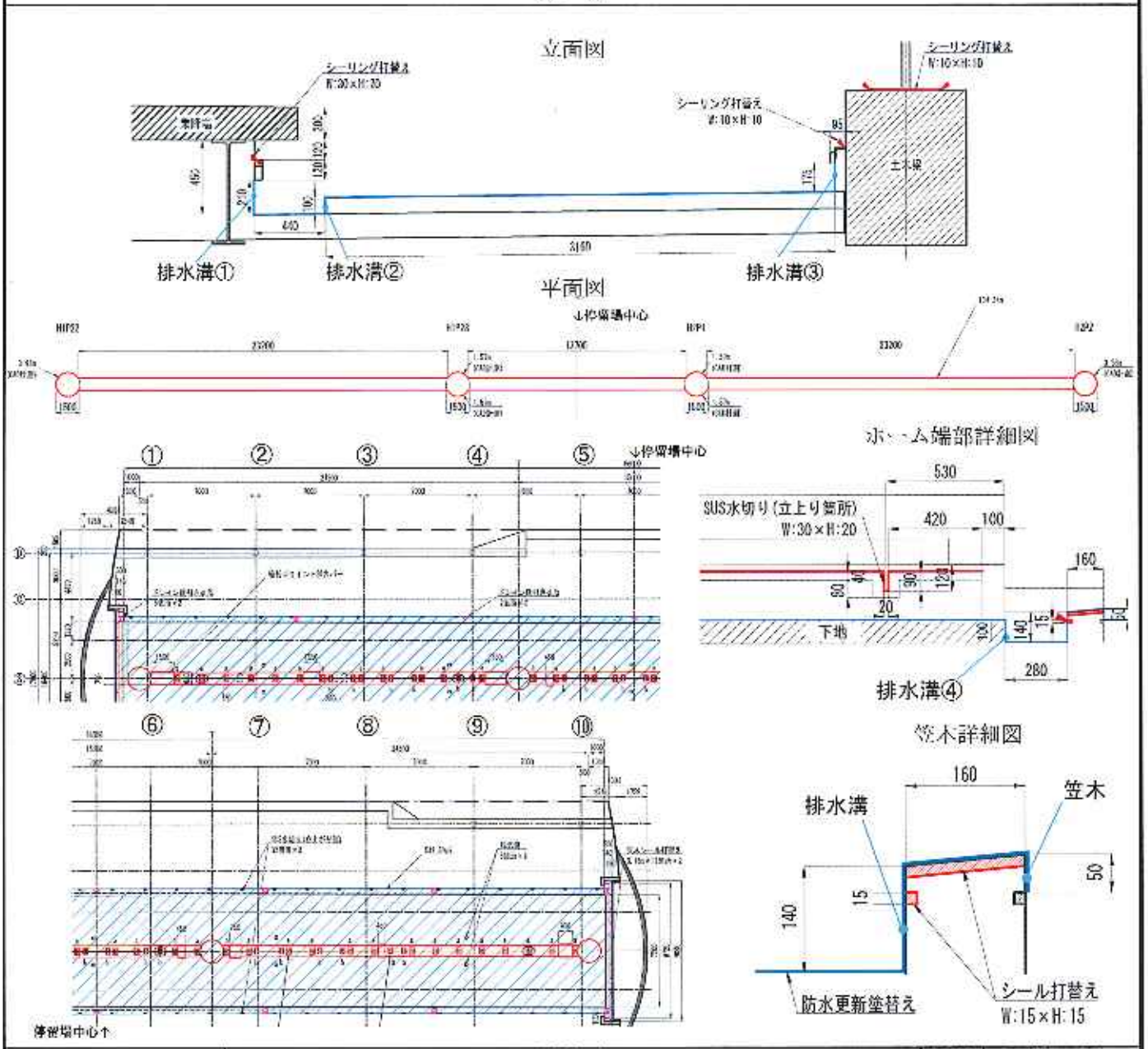
名　称	計算式		単位	数　量
平場控除面積 土木梁	0.75　*((23.20　*2)　+13.70)	=	m²	15.08
①支柱（水切り含む）	(0.75*0.75*3.14)　*4	=	m²	7.07
（控除面積） ②支柱（水切り含む）	−(0.05　+0.10)　*2	=	m²	0.30
合計		=	m²	51.85

4．塗膜防水

4－3．塗膜防水（防水層更新）数量

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	立上り、笠木	X-2	㎡	142.30

略　図



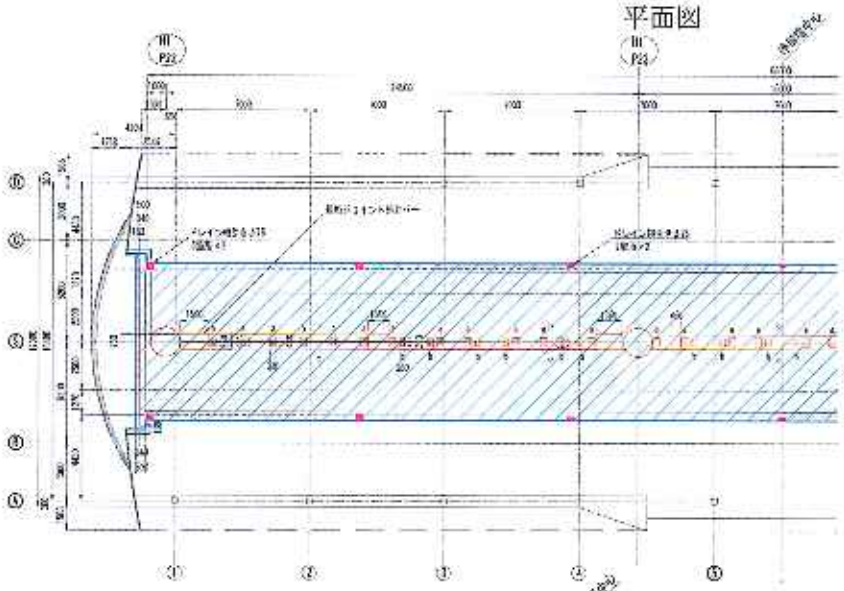
名　称	計算式		単位	数　量
立上がり				
排水溝①（乗降場側）	(0.21　*66.00)　*2	=	㎡	27.72
排水溝②（乗降場側）	(0.10　*66.00)　*2	=	㎡	13.20
排水溝③（ホーム端側）	0.18　*134.34	=	㎡	24.18
排水溝④（ホーム端側）	(0.10　*72.00)　*2	=	㎡	14.40
排水溝⑤（ホーム端側）	(0.14　*(87.20　-0.34*2))　*2	=	㎡	24.61
笠木（外壁側）	((0.05+0.16)　*90.40)　*2　+(0.16*0.34)　*4	=	㎡	38.19
合計		=	㎡	142.30

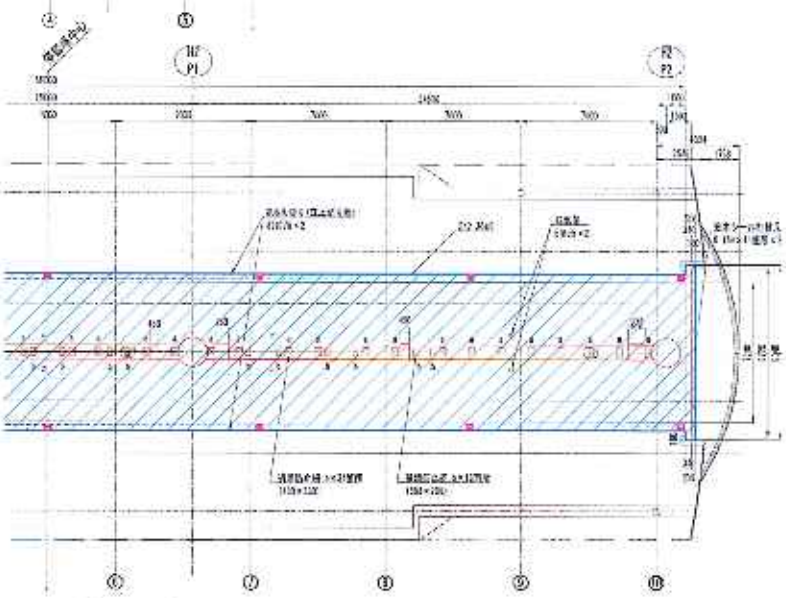
5．改修ﾄﾞﾚｲﾝ

5－1．改修ﾄﾞﾚｲﾝ

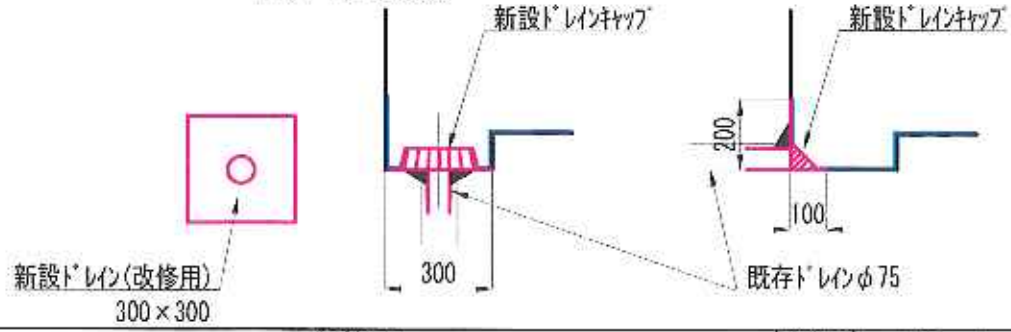
工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	改修ﾄﾞﾚｲﾝ設置	縦引き	個	10.00

略　図





ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ詳細図

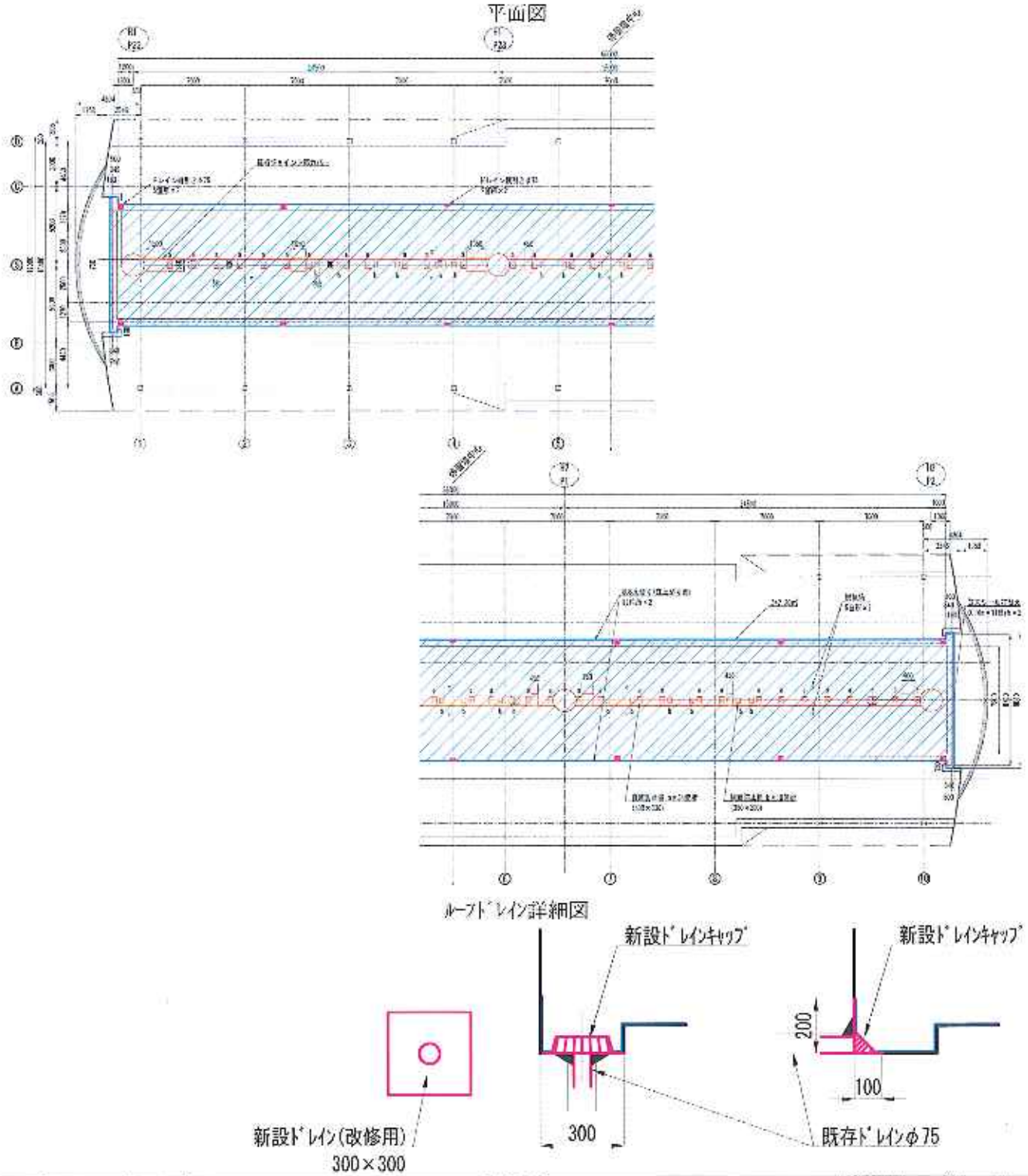


名　称	計算式		単位	数　量
ﾄﾞﾚｲﾝ回り（縦引き）	5*2	－	個	10.00
合計		－	個	10.00

5．改修ﾄﾞﾚｲﾝ
5　2．改修ﾄﾞﾚｲﾝ

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	ｳﾚﾀﾝ塗膜防水	改修ﾄﾞﾚｲﾝ設置	横引き	個	4.00

略　図



名　称	計算式	単位	数　量
ﾄﾞﾚｲﾝ周り(横引き)	2*2	個	4.00
合計		個	4.00

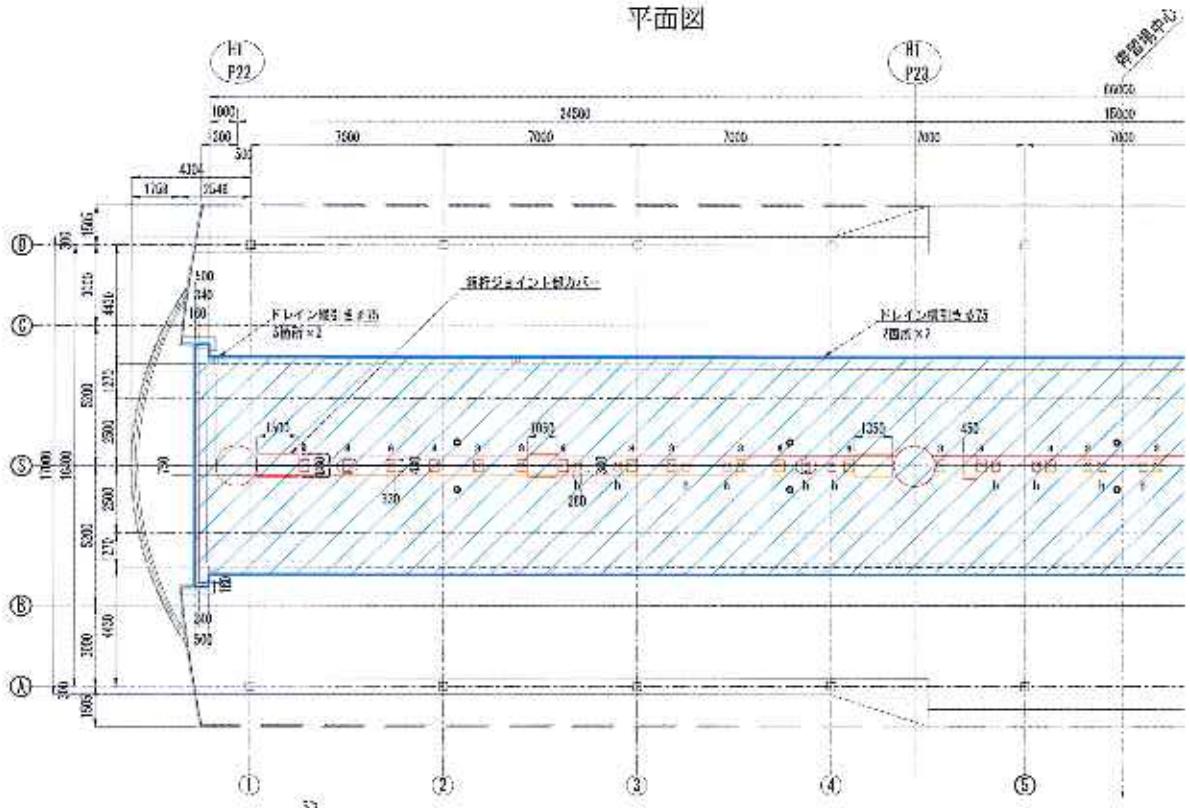
6．脱気装置

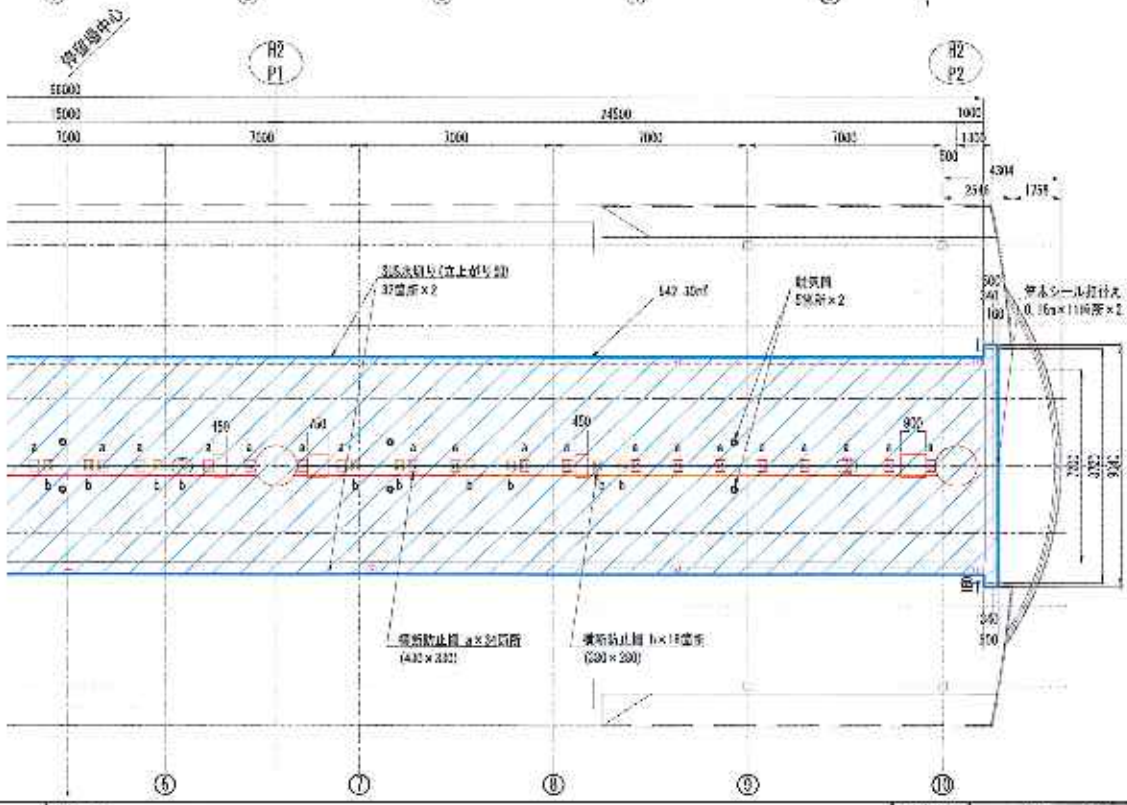
6－1．脱気装置

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	ウレタン塗膜防水	脱気装置設置	－	個	10.00

略　図

平面図





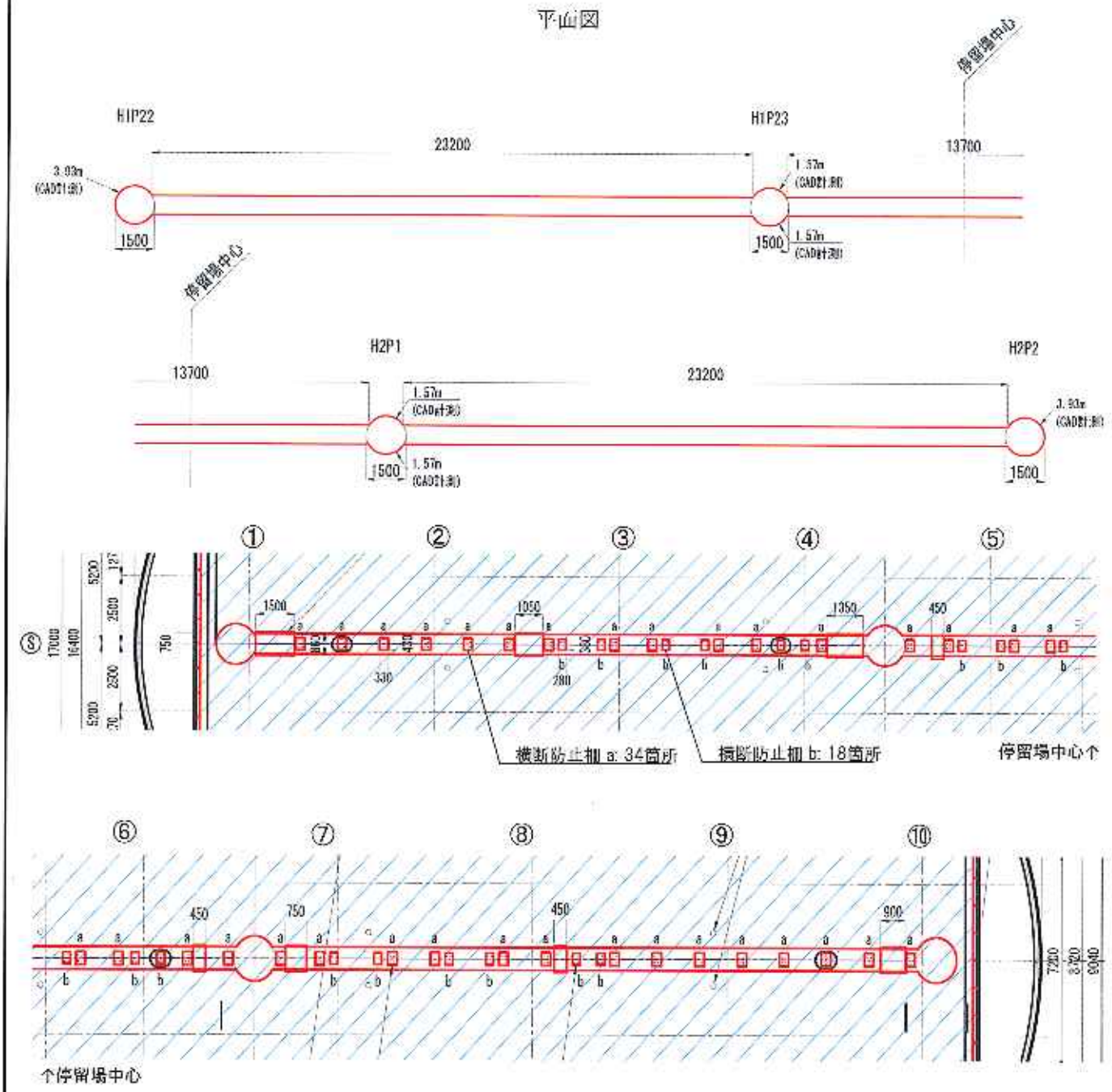
名　　称	算式		単位	数　量
脱気筒	5　*2	=	個	10.00
合計			個	10.00

7．シーリング

7－1．シーリング

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	シーリング	変性シリコーン	W10×H10	m	209.78

略　図



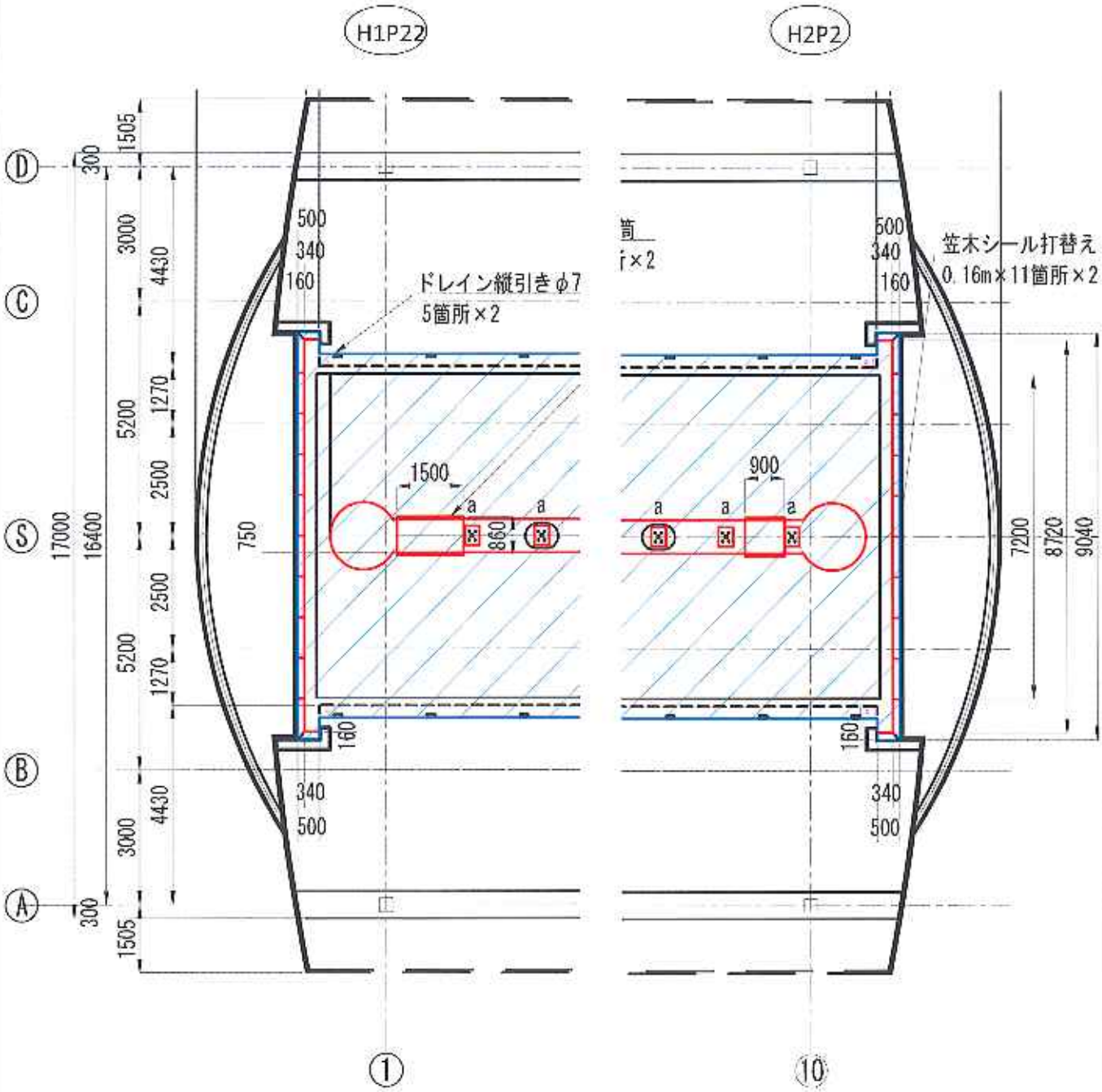
名　　称	計算式	単位	数　量
支柱周り	(3.93+(1.57*2))　*2　=	m	14.14
上木梁	23.20　*4　(13.70　*2　=	m	120.20
横断防止柵	((0.43　+0.33)*2)　*34　+((0.38　+0.28)*2)　*18　=	m	75.44
合計	=	m	209.78

7．ｼｰﾘﾝｸﾞ
7－2．ｼｰﾘﾝｸﾞ

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	ｼｰﾘﾝｸﾞ	変性ｼﾘｺｰﾝ	W15×H15	m	22.32

略　図

平面図



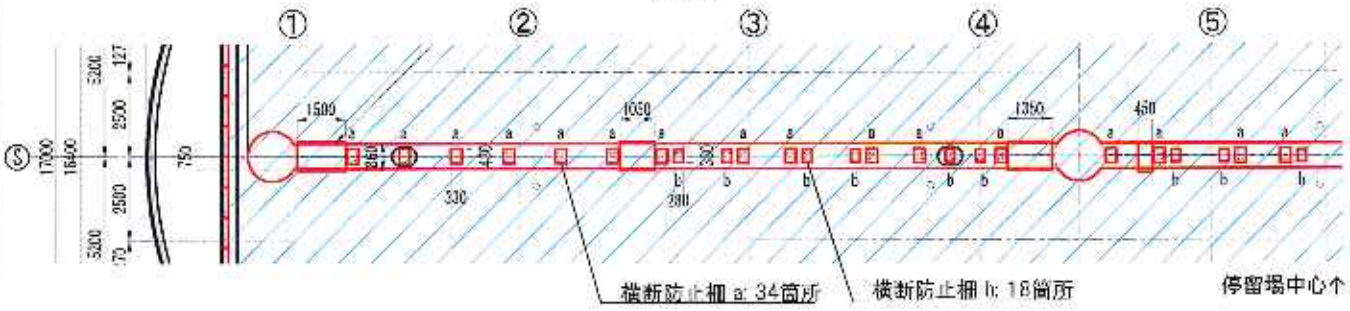
名　称	計算式		単位	数　量
笠木(上面)	(0.16　*(9+2))　*2	=	m	3.52
笠木(側面)	(8.72　+0.34　*2)　*2	=	m	18.80
合計		=	m	22.32

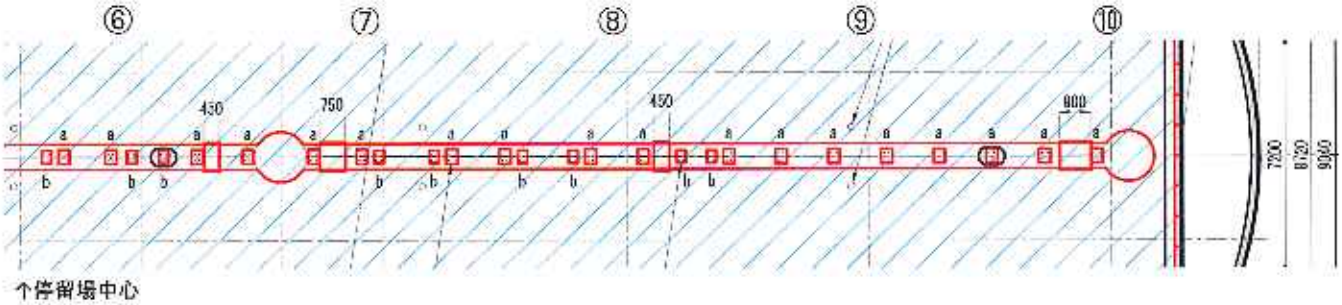
7．ｼｰﾘﾝｸﾞ
7－3．ｼｰﾘﾝｸﾞ

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	ｼｰﾘﾝｸﾞ	変性ｼﾘｺｰﾝ	W15×H25	m	27.60

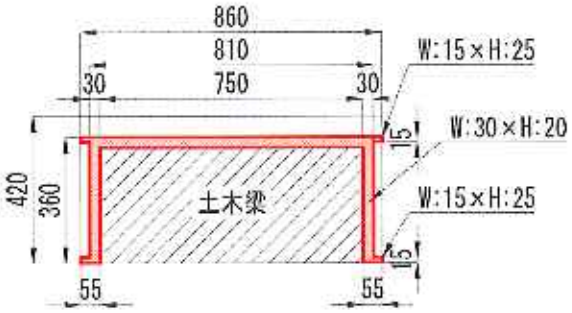
略　図

平面図





箱桁ｼﾞｮｲﾝﾄ部ｶﾊﾞｰ詳細図



名　称	計算式		単位	数　量
箱桁ｼﾞｮｲﾝﾄ部ｶﾊﾞｰ (W:15×H:15)				
1500×860	(1.50　*2)　*2	=	m	6.00
1050×860	(1.05　*2)　*2	=	m	4.20
1350×860	(1.35　*2)　*2	=	m	5.40
450×860	(0.45　*2)　*2　*3	=	m	5.40
750×860	(0.75　*2)　*2	=	m	3.00
900×860	(0.90　*2)　*2	=	m	3.60
合計		=	m	27.60

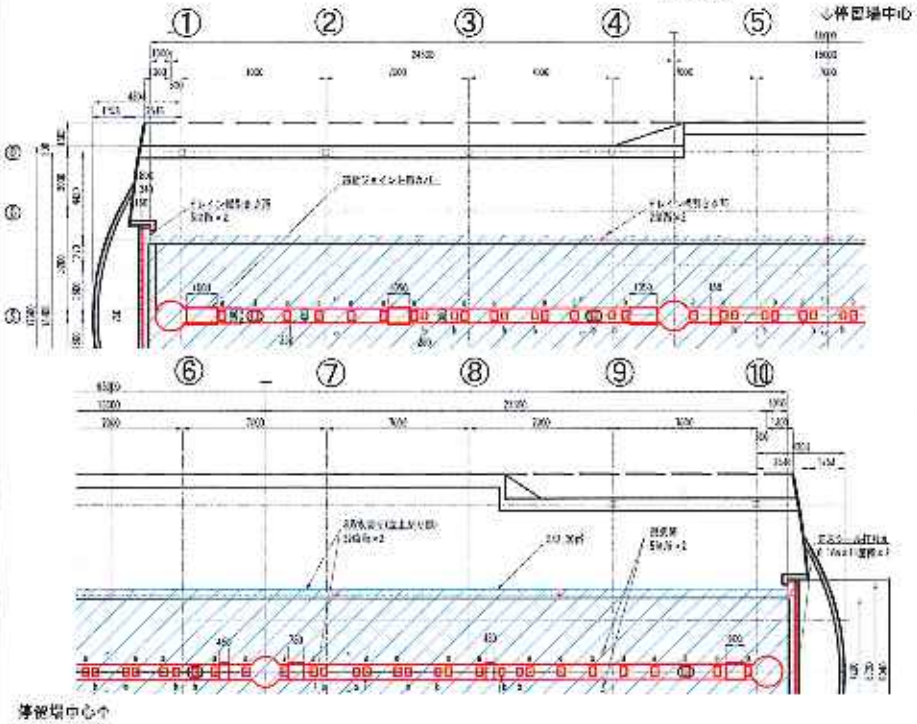
7．ｼｰﾘﾝｸﾞ

7－4．ｼｰﾘﾝｸﾞ

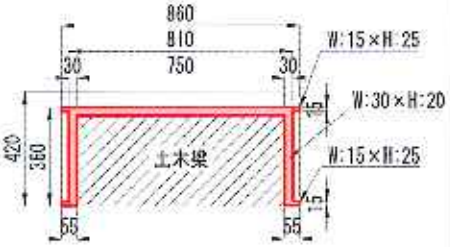
工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
防水	ｼｰﾘﾝｸﾞ	変性ｼﾘｺｰﾝ	W30×H20	m	169.98

略　図

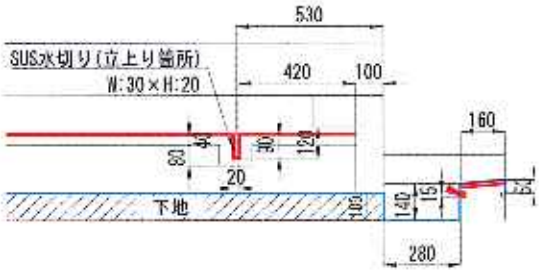
平面図



箱桁ｼﾞｮｲﾝﾄ部ｶﾊﾞｰ詳細図



ホーム端部詳細図



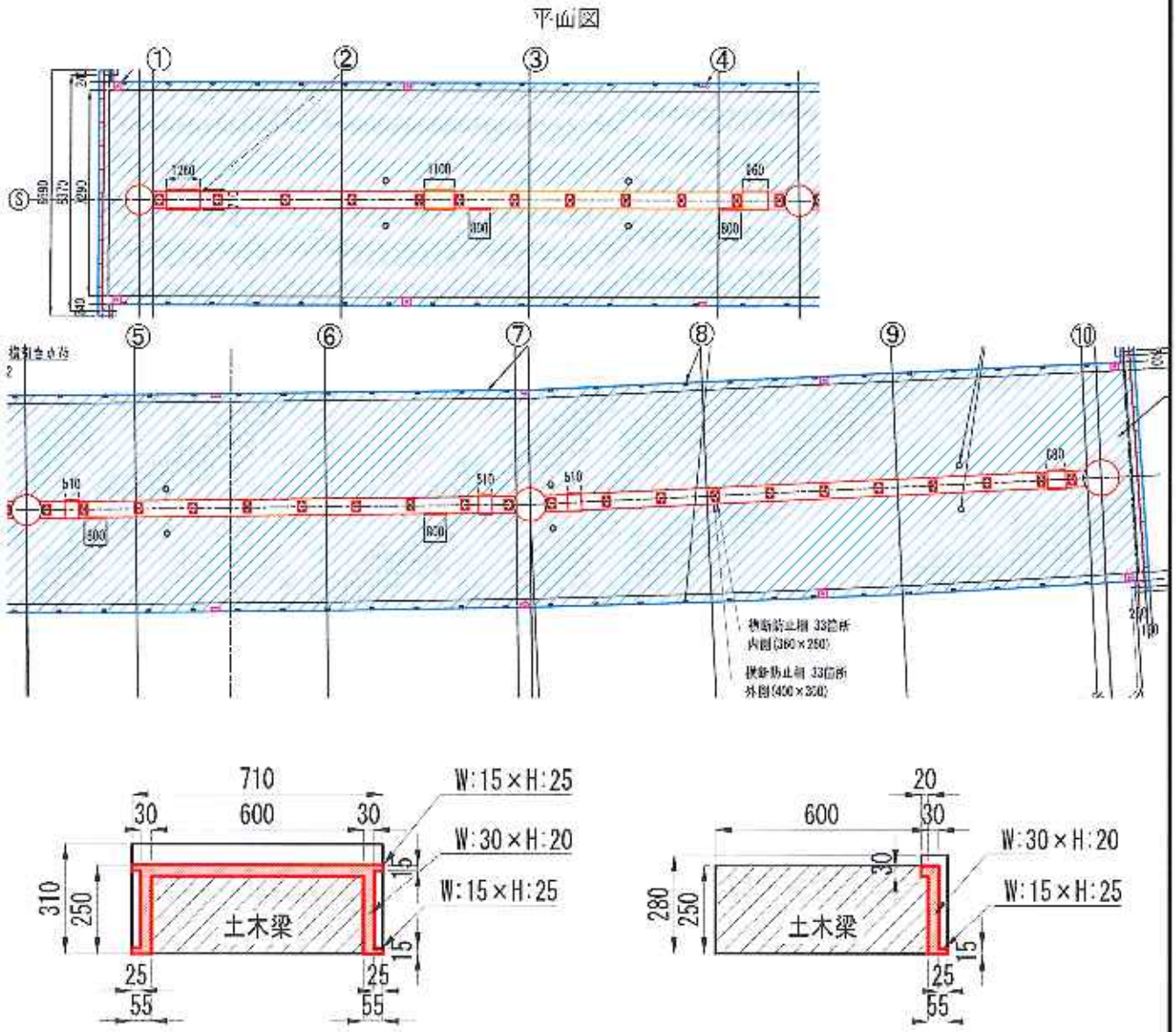
名　称	計算式		単位	数　量
箱桁ｼﾞｮｲﾝﾄ部ｶﾊﾞｰ (W:30×H:20)				
1500×860	(0.75 ÷(0.36 *2)) *2	=	m	2.94
1050×860	(0.75 ÷(0.36 *2)) *2	=	m	2.94
1350×860	(0.75 ÷(0.36 *2)) *2	=	m	2.94
450×860	(0.75 ÷(0.36 *2)) *2 *3	=	m	8.82
750×860	(0.75 ÷(0.36 *2)) *2	=	m	2.94
900×860	(0.75 ÷(0.36 *2)) *2	=	m	2.94
900×860	(0.75 ÷(0.36 *2)) *2	=	m	2.94
SUS水切り(乗降場下)	(66.00 ÷(0.09 *2) *32) *2	=	m	143.52
合計		=	m	169.98

8．撤去

8－1．撤去

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
撤去	既存防水層撤去	－	－	㎡	585.51

略　図



名　称	計算式	単位	数　量
既存防水層	「3－4．下地調整」参照	㎡	585.51
合計	=	m2	585.51

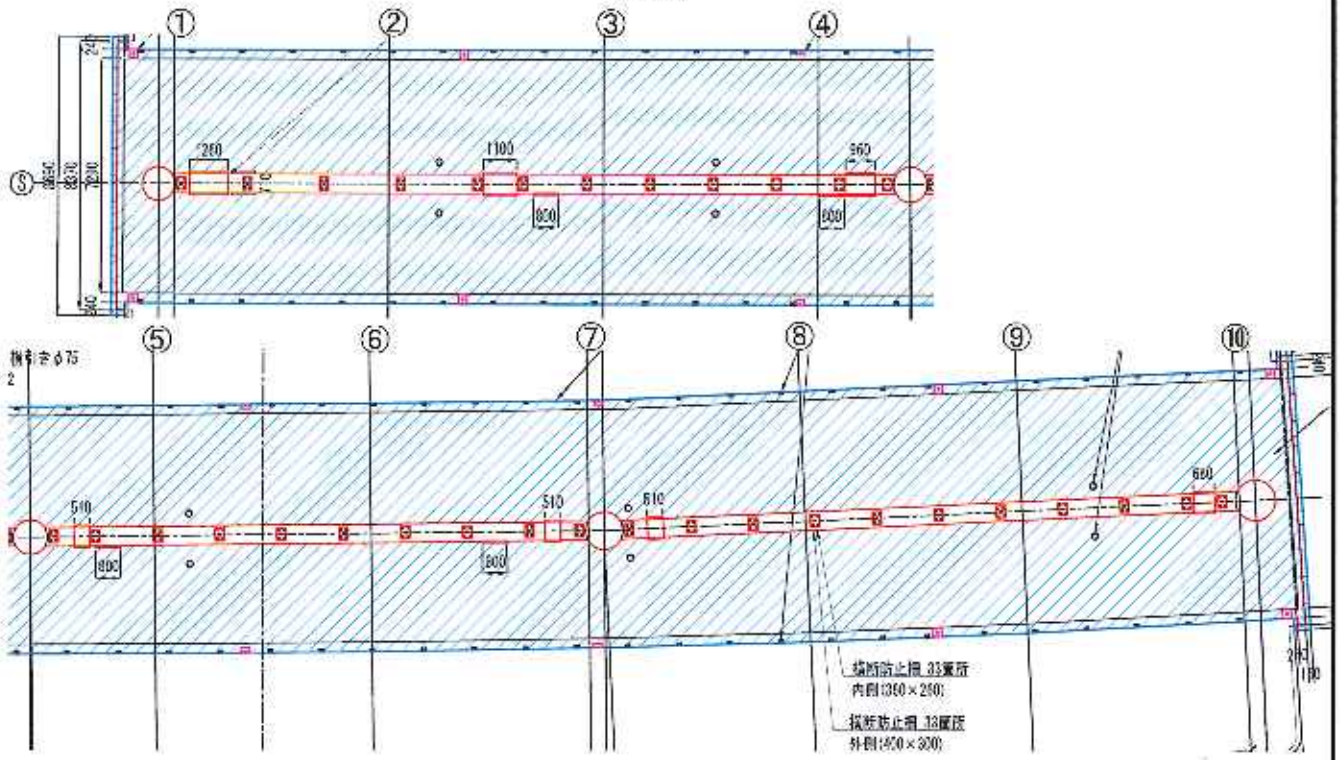
8．撤去

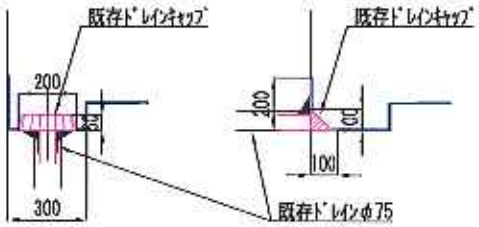
8－2．撤去

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
撤去	ｼｰﾘﾝｸﾞ撤去	変形シリコーン		m	429.68

略　図

平面図





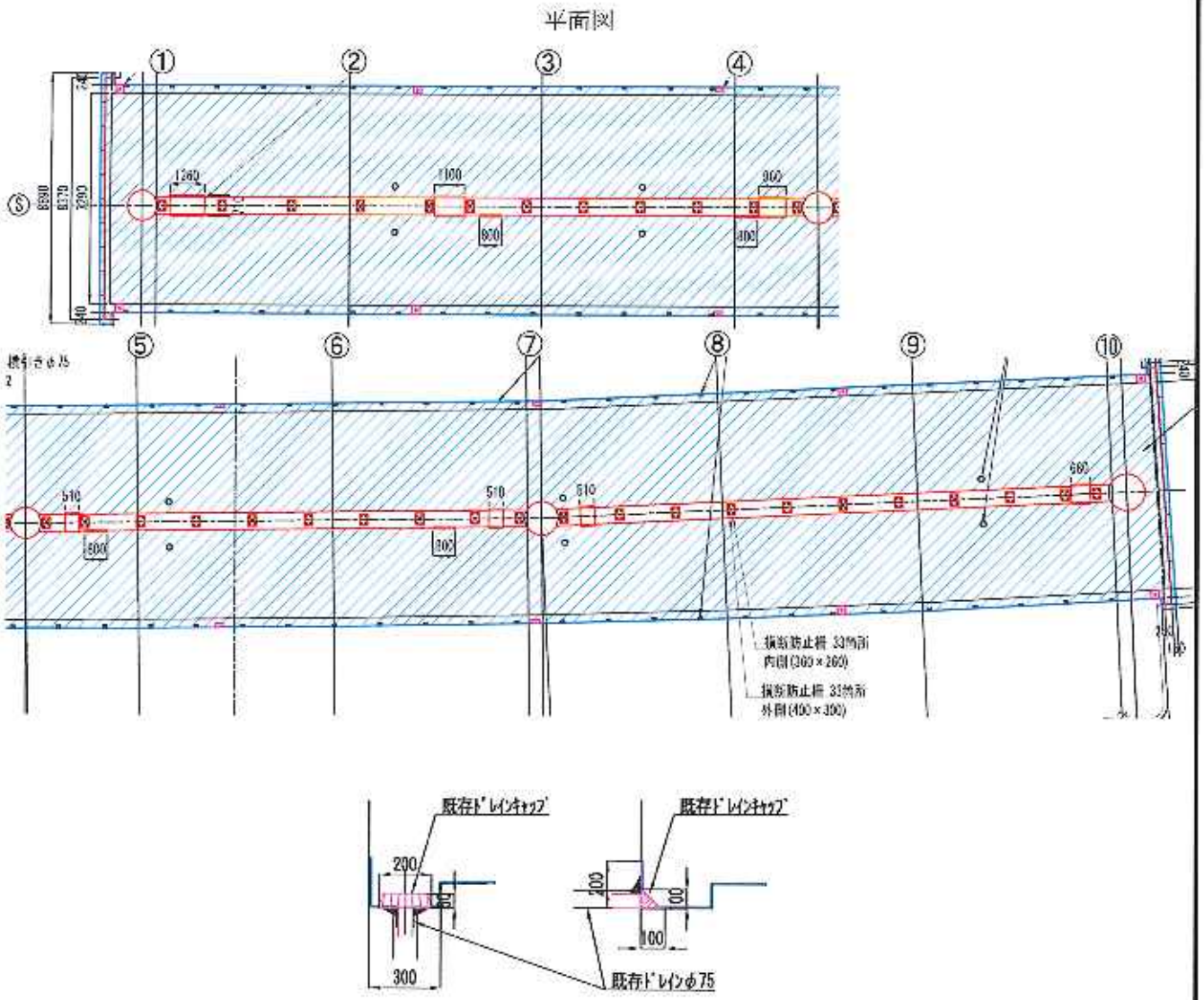
名　称	計算式		単位	数　量
変形ｼﾘｺｰﾝ10×10	「7－1．ｼｰﾘﾝｸﾞ」参照	=	m	209.78
変形ｼﾘｺｰﾝ15×15	「7－2．ｼｰﾘﾝｸﾞ」参照	=	m	22.32
変形ｼﾘｺｰﾝ15×25	「7－3．ｼｰﾘﾝｸﾞ」参照	=	m	27.60
変形ｼﾘｺｰﾝ30×20	「7－4．ｼｰﾘﾝｸﾞ」参照	=	m	169.98
合計		=	m	429.68

9．発生材

9－1．発生材

工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
発生材	金属くず	－	－	m³	0.03

略　図



名　　称	計算式		単位	数　量
金属くず ﾄﾞﾚｲﾝｷｬｯﾌﾟ縦/横引き	0.1*0.1*3.14*0.06*10+(0.1+0.1)*0.1/2/2*0.2*4	=	m³	0.02
脱気筒	0.05*0.05*3.14*0.15*10	=	m³	0.01
合計		=	m	0.03

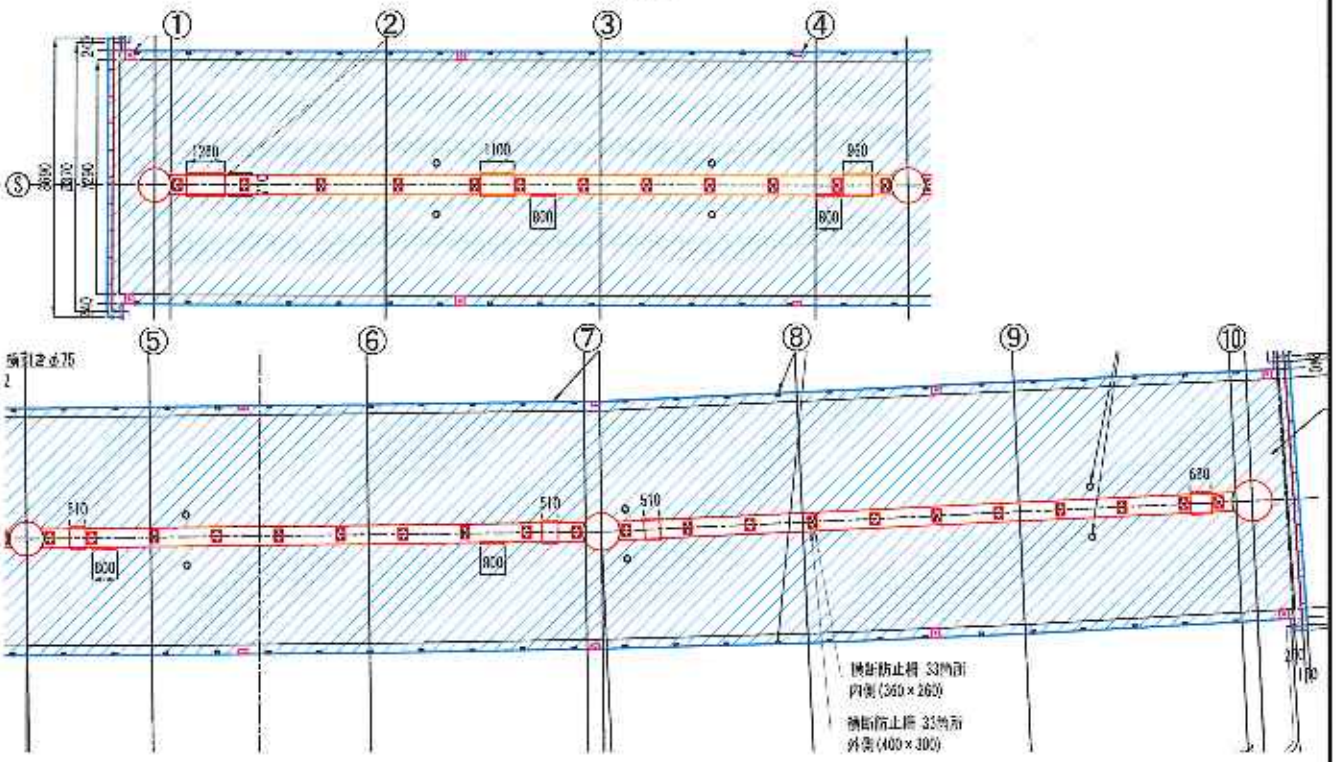
9．発生材

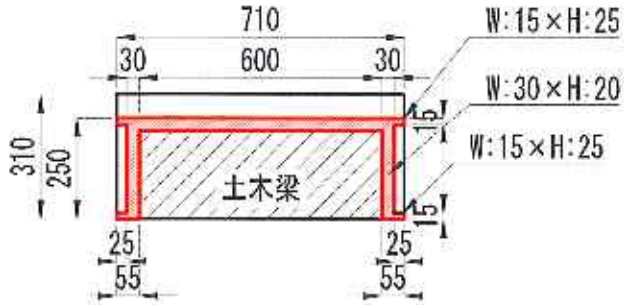
9－2．発生材

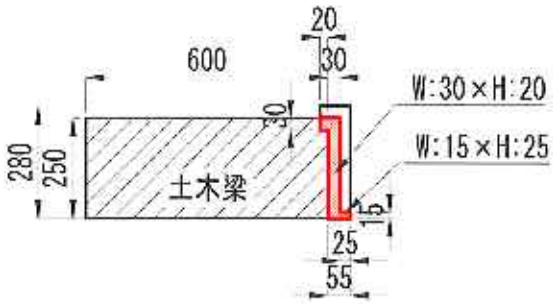
工　種	種　別	細　別	規　格	単位	設計数量
発生材	混合廃棄物	－	－	m³	3.07

略　図

平面図







名　称	計算式		単位	数　量
混合廃棄物		=		
変形ｼﾘｺｰﾝ10×10	0.01*0.01*209.78 「7　1．ｼｰﾘﾝｸﾞ」参照	=	m³	0.02
変形ｼﾘｺｰﾝ15×15	0.015*0.015*22.32 「7－2．ｼｰﾘﾝｸﾞ」参照	=	m³	0.01
変形ｼﾘｺｰﾝ15×25	0.015*0.025*27.60 「7－3．ｼｰﾘﾝｸﾞ」参照	=	m³	0.01
変形ｼﾘｺｰﾝ30×20	0.030*0.020*169.98 「7－4．ｼｰﾘﾝｸﾞ」参照	=	m3	0.10
既存防水層	585.51*0.005 「3－4．下地調整」参照	=	m3	2.93
合計		=	m	3.07

「資料③」

転落防止床防水工事仕様書

1章、　転落防止床防水工事

イ）適用範囲

この章は，転落防止床防水工事に適用する。

ロ）基本要求品質

A)　防水工事

①　防水工事に用いる材料は，所定のものであること。

②　防水層は，所定の形状及び寸法を有し，所要の仕上り状態であること。

③　防水層は，取合い部を含め漏水がないこと。

B)　シーリング工事

①　シーリング工事に用いる材料は，所定のものであること。

②　シーリング部は，所定の形状及び寸法を有し，所要の仕上り状態であること。

③　シーリング部は，漏水がないこと。

ハ）施工一般

A)　施工管理

①　降雨・降雪が予想される場合，下地の乾燥が不十分な場合，気温が著しく低下した場合，強風及び高湿の場合，その他防水に悪影響を及ぼすおそれがある場合には，施工を行わない。

②　防水層の施工は，監督職員の検査を受ける。

③　防水層施工後，機材等によって防水層を損傷しないように注意する。

B)　施工条件

①　本工事の施工時間は夜間とし、0：30～4：55とする

②　当夜作業の22：30に施設課事務所にて線路閉鎖責任者へ施工打ち合わせ表を提出し、打ち合わせを行う

③　線路閉鎖責任者の指示があるまでは作業を行ってはならない

④　軌道作業車通過時は全作業員をホームに一時退避させ、軌道敷内に工具等が残されていないことを確認し線路閉鎖責任者に報告する

⑤　当夜工事の中止の連絡は当日16時までに当夜線路閉鎖責任者及び監督員に連絡すること

⑥　防水層撤去時の漏水対策は監督職員協議のうえ実施すること。

ニ）防水工事の保証期間

かし担保期間に限らず、保証期間中に施工上の過失の類等により雨漏り事故が生じた場合は、無償にて補修復旧をする。防水工事の保証期間は下記のとおりとし、保証書を提出する。

塗膜防水工事	10年保証
シーリング工事	10年保証

2章、　転落防止床更新工事

イ）適用範囲

この章は転落防止床更新工事に適用する。

ロ）材料

A)　主材料

塗膜を形成する材料は，JIS A 6021（建築用塗膜防水材）、環境配慮型の屋根用ウレタンゴム系高伸長形とし，立上り部は立上り用又は共用を用いる。

B)　その他の材料

プライマー，層間接着用プライマー，補強布，接着剤，通気緩衝シート、

この節でいうシーリング材，仕上塗料等は，主材料製造所の指定する製品とする。

ハ）種別工程

種別	X-1（絶縁工法）		X-2（密着工法）	
工程	材料・工法	使用量（kg/m²）	材料・工法	使用量（kg/m²）
1	接着剤塗り 通気緩衝シート張り（注）5	0.3	プライマー塗り	0.2
2	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り	3.0 注1、注4	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り 補強布張り	0.3 注1
3	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り		ウレタンゴム系塗膜防水材塗り	2.7 注1,注4 （1.7）注2
4	仕上塗料塗り	0.2	ウレタンゴム系塗膜防水材塗り	
5			仕上塗料塗り	0.2

注１、表中のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は，硬化物密度が 1.0Mg/m³である材料の場合を示しており，硬化物密度がこれ以外の場合にあっては，所要塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

注２、立上り部はすべて，種別 X-2 とし，工程 3 及び工程 4 を（ ）内とする。

注３、ウレタンゴム系塗膜防水材塗りについては，1 工程あたりの使用量を，硬化物密度が 1.0Mg/m³である材料の場合，平場は 2.0kg/m²，立上りは kg/m²を上限として変更することができる。

注４、 ウレタンゴム系塗膜防水材塗りは 2 回以上に分割して塗り付ける。

注５、接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は，主材料製造所の仕様による。

注６、L4X工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は，工程１を省略する。

注７、脱気装置の種類及び設置数量は，特記による。特記がなければ，種類及び設置数量は主材料製造所の指定とする。

ニ) 施工

既存防水層の撤去

平場及び立ち上がり部の防水層の撤去は、下地に損傷を与えないよう行う。

(a) 防水層の下地

(1) 下地に付着している異物はケレンし，全面をデッキブラシ等で清掃を行う。

(2) 防水層撤去後は仮防水機能を有するポリマーセメントペーストもしくはポリマーセメントモルタルで下地表面を平滑にする。コンクリート面等のひび割れ部は，ポリマーセメントモルタル等で補修する。

(3) 下地の欠損部は，ポリマーセメントモルタルで平滑に補修する。支障のある浮き部は，撤去し，ポリマーセメントモルタルで補修する。ぜい弱部は，ケレン等のうえポリマーセメントペースト等で補修する。 ひび割れ幅が2㎜ 以上の場合は，Uカットのうえポリウレタン系シーリング材等を充填する。

(4) 既存目地の欠損部は，ポリマーセメントモルタルを充填するなどして，平らに補修する。 また，突出している目地材は，平らに撤去する

(5) 部分的な水はけ不良がある場合は，ポリマーセメントモルタルで補修する。ただし，勾配不良がみられる場合は，監督職員と協議する。

(6) ルーフドレン，配管等と防水下地材との取合いは，シーリング材で処理する。改修用ドレインを設ける場合は特記による。取り付け方法はルーフィング類製造所の仕様による。

(7) 入隅、出隅は通りよく 45° の面取りとする

(b) プライマー塗り

(1) 下地が十分乾燥したのちに清掃を行い，塗布する。

(2) ローラーばけ等を用いて当日の施工範囲をむらなく塗布する

(c) 下地の補強

(1) コンクリートの打継ぎ箇所及び補修を行った著しいひび割れ箇所は，幅 100㎜ 以上の補強布を用いて補強塗りを行う。

(2) 出隅及び入隅は，幅 100㎜ 以上の補強布を用いて補強塗りを行う。

(3) ルーフドレン，配管等の取合いは，100㎜ 以上の補強布を用いて補強塗りを行う。

(d) 防水材塗り

(1) 防水材は，製造所の仕様により，可使時間に見合った量及び方法で練り混ぜる。

(2) 防水材塗りは，材料に見合った方法で均一に塗り付ける。 なお，種別X－2の場合は，補強布を張りながら塗り付け

る。

(3) 塗継ぎの重ね幅は 100㎜ 以上とし，補強布の重ね幅は 50㎜ 以上とする。

(4) 種別X－1，X－2 の立上り部においては，平場部との取合いから 100mm 程度の高さまで，防水材の塗増しを行う。

(5) (1)から(4)以外は，主材料製造所の仕様による。

3章、　トップコート塗り替え工事

イ）適用範囲

この章はトップコート塗り替え工事に適用する。

ロ）材料

特記なき場合はプライマー，仕上塗料等は，既存主材料製造所の指定する製品とする。

ハ）施工

A)　既存防水層の処理

① 転落防止床に付属する看板等の表示については原則取り外し、監督職員の指定した場所に保管する。新設するものについては、千葉モノレールから提供するものとする。列車運行上仮設が必要なものについては、監督職員と協議すること。

② 高圧洗浄及びデッキブラシ，ポリッシャー等で水洗いを行い、下地のほこり、汚れ等は完全に除去する。

③ 既存防水層の補修については特記による。特記により実施する場合は【4章塗膜防水部分補修】を参照すること

④ 乾燥後，プライマーを塗布し，新規仕上げ塗装との接着性をよくする。

B)　仕上げ塗料塗り

① 仕上塗料塗りは，ローラーばけ等を用いて，むらなく塗りつける

② 上塗り用の塗料の色は，監督職員の協議の上、決定する。

4章、　塗膜防水部分補修

イ）　適用範囲

この章は塗膜防水部分補修工事に適用する。種別及び工程新規防水層の種別及び工程は，特記による。特記がなければ，種別 X-2 とする。

ロ）　材料

特記なき場合はプライマー，仕上塗料等は，既存主材料製造所の指定する製品とする

ハ）　施工

A)　既存防水層の補修及び処置

① 既存防水層の破断，穴あき箇所の浮き部分及びふくれ部分は，切除し，ポリマーセメントモルタルで平滑に補修する。

② 防水層の防水層表面は，ゴミ等の異物を取り除き，デッキブラシ、ポリッシャー等で水洗いを行う。

③ 乾燥後，層間接着用プライマーを塗布し，新規防水層との接着性をよくする。

④ ルーフドレン周囲の既存防水層は、ルーフドレン端部から 300mm 程度まで、既存防水層を四角形に撤去する。

⑤ ルーフドレンと防水下地材との取合いは，シーリング材で処理する。

⑥ 改修用ドレンを設ける場合は特記による。取付け方法等は，ルーフィング類製造所の仕様による。

⑦ ルーフドレンの損傷，腐食，納まり等により，漏水のおそれがある場合は，監督職員と協議する。

B)　プライマー塗り

① 下地が十分に乾燥したのちに清掃を行い、塗布する

② ローラーばけ等を用いて当日の施工範囲をむらなく塗布する

C)　下地の補強

① 下地のひび割れ部、目地等は幅 100mm 以上の補強布を用いて補強塗りを行う

② 出隅及び入隅は，幅 100mm 以上の補強布を用いて補強塗りを行う。

③ ルーフドレン，配管等の取合いは，幅 100mm 以上の補強布を用いて補強塗りを行う。

D)　防水材塗り

① 防水材は，製造所の仕様により，可使時間に見合った量及び方法で練り混ぜる。

② 防水材塗りは，材料に見合った方法で均一に，補強布を張りながら塗り付ける。

③ 塗継ぎの重ね幅は 100mm 以上とし，補強布の重ね幅は 50mm 以上とする。

④ 立上り部においては，平場部との取合いから 100mm 程度の高さまで，防水材の塗増しを行う。

⑤ ①から④以外は，主材料製造所の仕様による。

5章、　シーリング

イ）適用範囲

この章は，不定形弾性シーリング材（以下「シーリング材」という。）を用いて改修を行う場合に適用する

ロ）一般事項

① 降雨，多湿等により結露のおそれがある場合は，作業を中止する。

② プライマーの塗布及び充填時に被着体が，5°C以下又は50°C以上になるおそれのある場合は，作業を中止する。やむを得ず作業を行う場合は，仮囲い，シート張り等による保温又は遮熱を行うなどの必要な措置をとり，作業を行うことができる。

ハ）材料

A）シーリング材

① シーリング材は，JIS A 5758（建築用シーリング材）による。なお，有効期間を過ぎたものは使用しない。

② シーリング材の種類及び施工箇所は，特記による。特記がなければ，種類は被着体に応じたものとする。

③ 2成分形シーリング材の基剤及び硬化剤は，製造所の指定する配合とする。

B）補助材料

① プライマーは，シーリング材製造所の製品とし，被着体（塗装してある場合は塗料）に適したものとする。

② バックアップ材は，合成樹脂又は合成ゴム製でシーリング材に変色等の悪影響を及ぼさず，かつ，シーリング材と接着しないものとし，使用箇所に適した形状で，裏面に接着剤のついているものは目地幅より1mm程度小さいもの，接着剤のついていないものは目地幅より2mm程度大きいものとする。

③ ボンドブレーカーは，紙，布，プラスチックフィルム等の粘着テープで，シーリング材と接着しないものとする。

ニ）シーリング再充填工法

A）下地処理

① 既存シーリング材の除去は，目地被着体に沿ってカッター等で切込みを入れ，できる限り除去し，バフ掛け，サンダー掛け又は清掃用溶剤により清掃を行う。なお，目地部の軽微な欠損部は，ポリマーセメントモルタル等で補修する。
目地幅・深さに不安があり再充填しても再発する可能性がある場合は監督職員と協議する。

② 下地が十分乾燥したのち，油分，塵あい，モルタル，塗料等の付着物及び金属部の錆を除去して清掃する。清掃は，素地や仕上げ材の材種に応じて研磨剤入りナイロン不織布掛け，サンドペーパー掛け又はケレンなどを行う。

③　目地深さがシーリング材の寸法より深い場合は，バックアップ材を装着し，所要の深さが得られるようにする。　目地深さが所要の寸法の場合は，目地底にボンドブレーカーを用いて二面接着とする。ただし，動きの小さい箇所の場合は，三面接着とすることができる。

特　記　仕　様　書

工事件名：転落防止床更新工事
工事場所：市役所前駅

１　工事目的

（１）本工事は、千葉都市モノレールインフラ施設停留場転落防止床において、経年劣化等により損傷している防水層等を更新し、施設への漏水・浸水を防止する。

２　工事概要

（１）防水工事

既存防水層を撤去後、ウレタン塗膜防水を塗布する。また、既存シーリング箇所は、撤去の上、打ち替えを実施する。

ア　ウレタン塗膜防水　　転落防止床（平場、立上り）、笠木
イ　シーリング打替え　　土木梁周り、ホーム下水切り、笠木、横断防止柵、箱桁ジョイント部カバー周り

３　適用範囲

（１）この特記仕様書は、公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）［平成 28 年版］（以下「改修標準仕様書」という。）でいう特記仕様書で、転落防止床更新工事（以下、「更新工事」という。）に適用する。

（２）特記仕様書に記載のない事項については、改修標準仕様書により施工するものとする。

（３）改修標準仕様書、特記仕様書の記載内容の優先順位については、特記仕様書、改修標準仕様書の順によるものとする。

（４）更新工事の施工に当たっては、下記に示す図書を適用する。

ア　線路閉鎖取扱規程　千葉都市モノレール㈱　制定　昭和 63 年 2 月 22 日
イ　営繕工事写真撮影要領　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課　平成 28 年版

（５）改修標準仕様書、適用図書のうち、この工事に該当しない工種・項目については適用しないものとする。

4　工事報告

（1）施工に際し、工事の進捗状況と今後の計画を報告・確認するため、必要に応じて、監督員との定例会議を開催する。

5　工事の作業区分・作業申請

（1）工事の作業区分は、下表を基本とする。作業区分で定められた施工内容を変更する場合は、監督員の承認を得るものとする。また、監督員からの指示により作業区分で定められた施工内容を変更する場合は、それに従うこと。

作業区分	作業時間	施工内容
夜間作業	0：30～4：55	建築限界を支障する恐れのある工事 例）仮設工、防水工、撤去工等

（2）工事実施に先立ち、事前に監督員に施工打合せ票を提出し、承認を得ること。また、施工開始月の前月 10 日までに作業内容・区間・時間等を記した事前申請書類を提出すること（事前申請書類は任意のものとする）。

（3）線路閉鎖を伴う作業の開始前に、下記の時間において監督員と打合せを行うこと。打合せには現場代理人が出席することを原則とする。

作業区分	作業時間	場所
夜間作業	22：30～	千葉都市モノレール㈱ 本社 2 階

6　仮設工事

（1）工事に必要となる工事用電力、水道等については請負者で負担とすること。

（2）監督員に計画書を提出し、その承認を得てから施工を開始すること。

7　防水工事

（1）既存防水層を撤去後、下地調整により不陸を整正の上、ウレタン塗膜防水を塗布すること。平場は、X-1 工法、立上り・笠木部は、X-2 工法で施工すること。

（2）脱気装置については、既存設置箇所と同等数以上、または図面数量のとおり設置すること。

（3）改修ドレインについては、既存ドレインの内径を確認し、現場に適したドレインを設置すること。ドレインキャップの仕様については、監督員の承認の上、取り付けること。

（４）シーリング打替えについて、既存シーリングを撤去の上、打ち替えること。シーリング材は、2 成分形変性シリコーン系シーリング材で施工すること。笠木部は、シーリング打替え後、塗膜防水を塗布すること。

８　撤去工事

（１）既存防水層に設置されているサインは、防水層と併せて撤去すること。なお、サイン撤去については、監督員の承認を得てから行い、施工後、元の位置に戻すこと。

９　提出図書

請負者は、工事の着手及び竣工時に、次のものを提出すること。

（１）着手時

ア　着手届
イ　現場代理人届及び主任技術者届
ウ　施工計画書
エ　施工体制台帳
オ　施工打合せ票
カ　工程表
キ　緊急連絡体制表
ク　その他監督員の指示によるもの

（２）竣工時（紙及び電子媒体により納品すること）

ア　工事報告書	２部
イ　工事写真	２部
ウ　竣工図	２部
エ　完了届	
オ　目的物引渡し申出書	
カ　その他監督員の指示によるもの	

以上